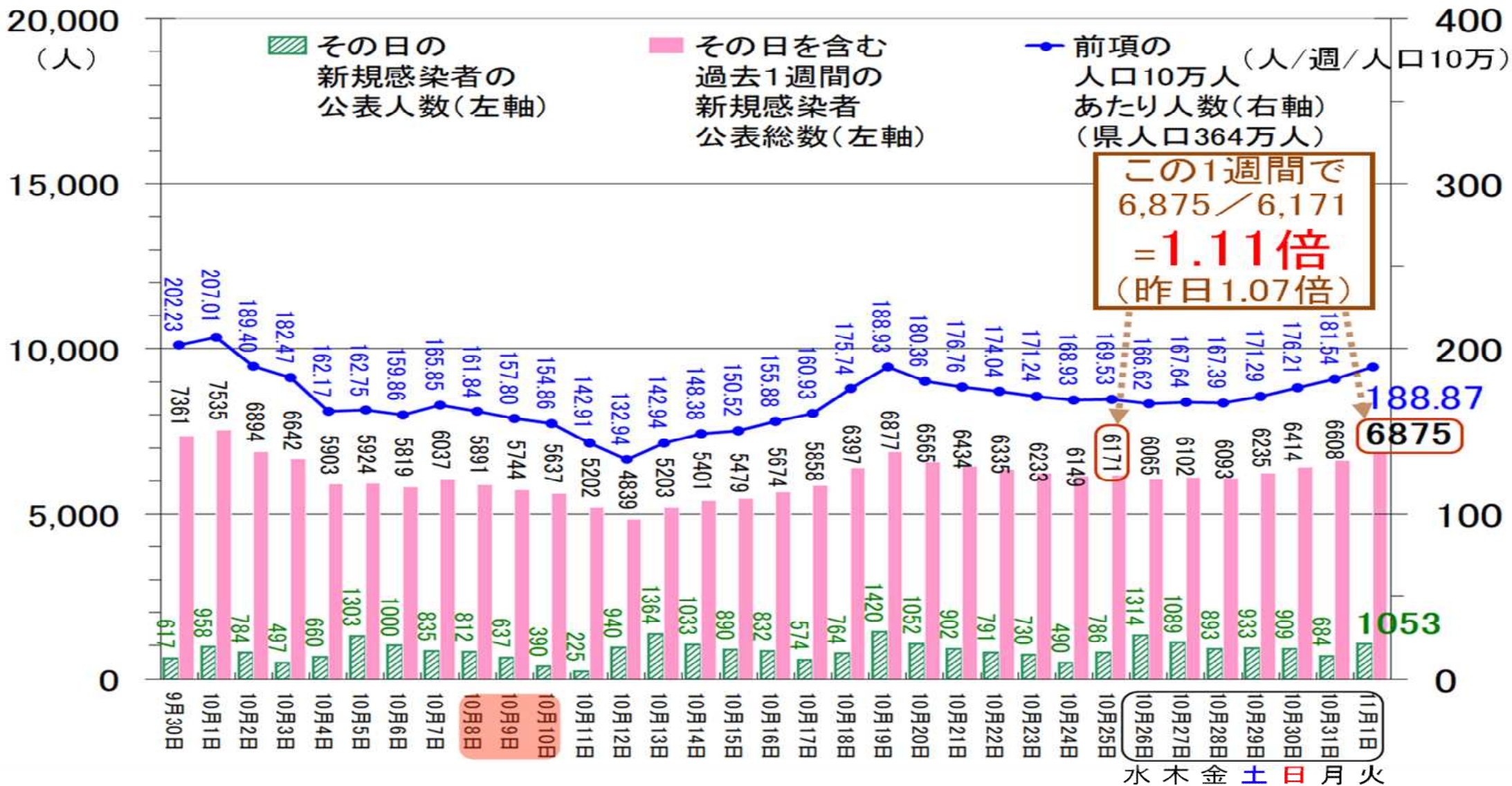


静岡県の 新型コロナウイルス感染症者 発生・入院等の状況 (2022年11月1日時点)

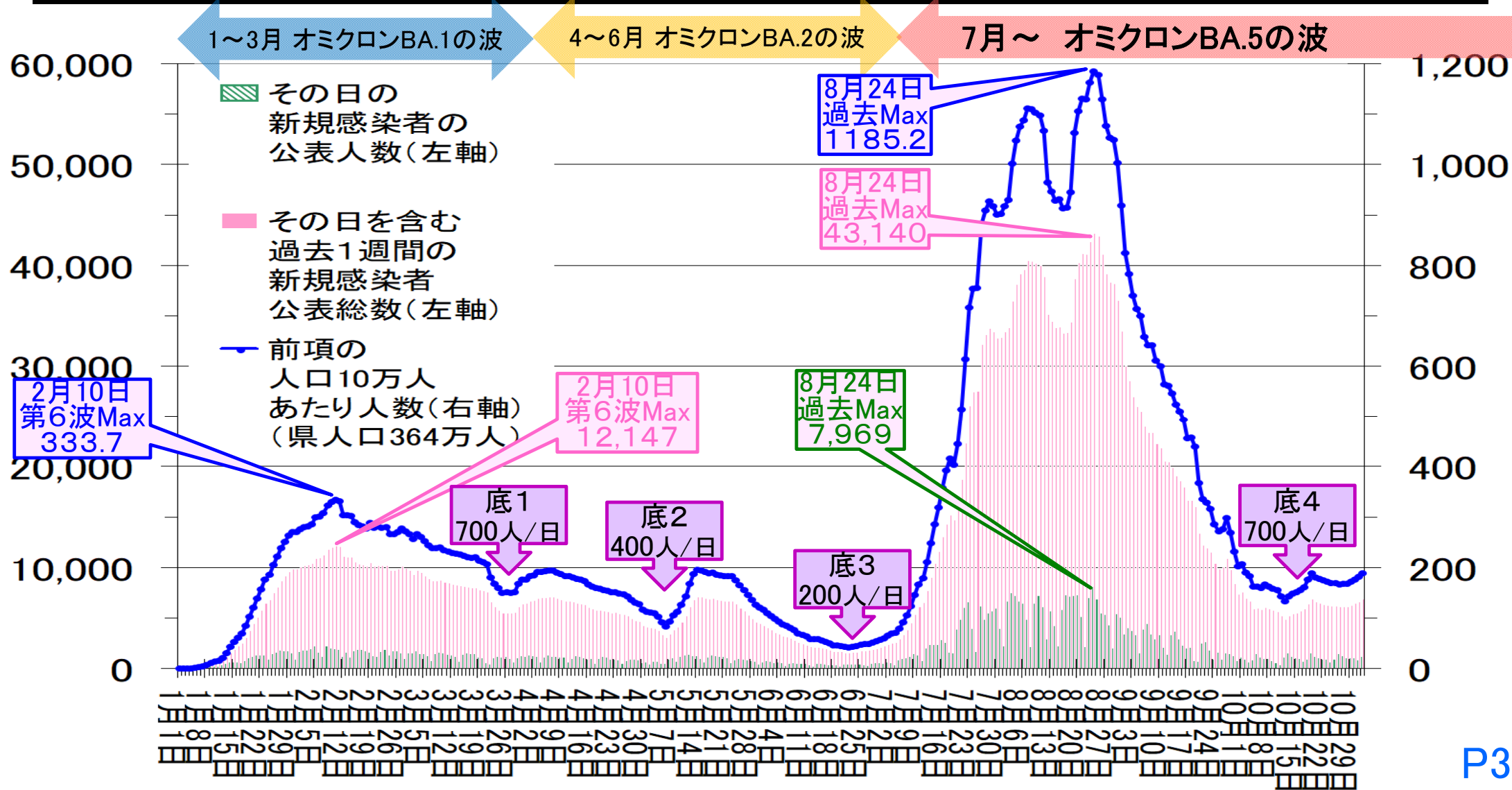


静岡県健康福祉部 新型コロナ対策 企画課 & 推進課

静岡県直近1か月の新型コロナ新規感染者数の状況《11/1時点》

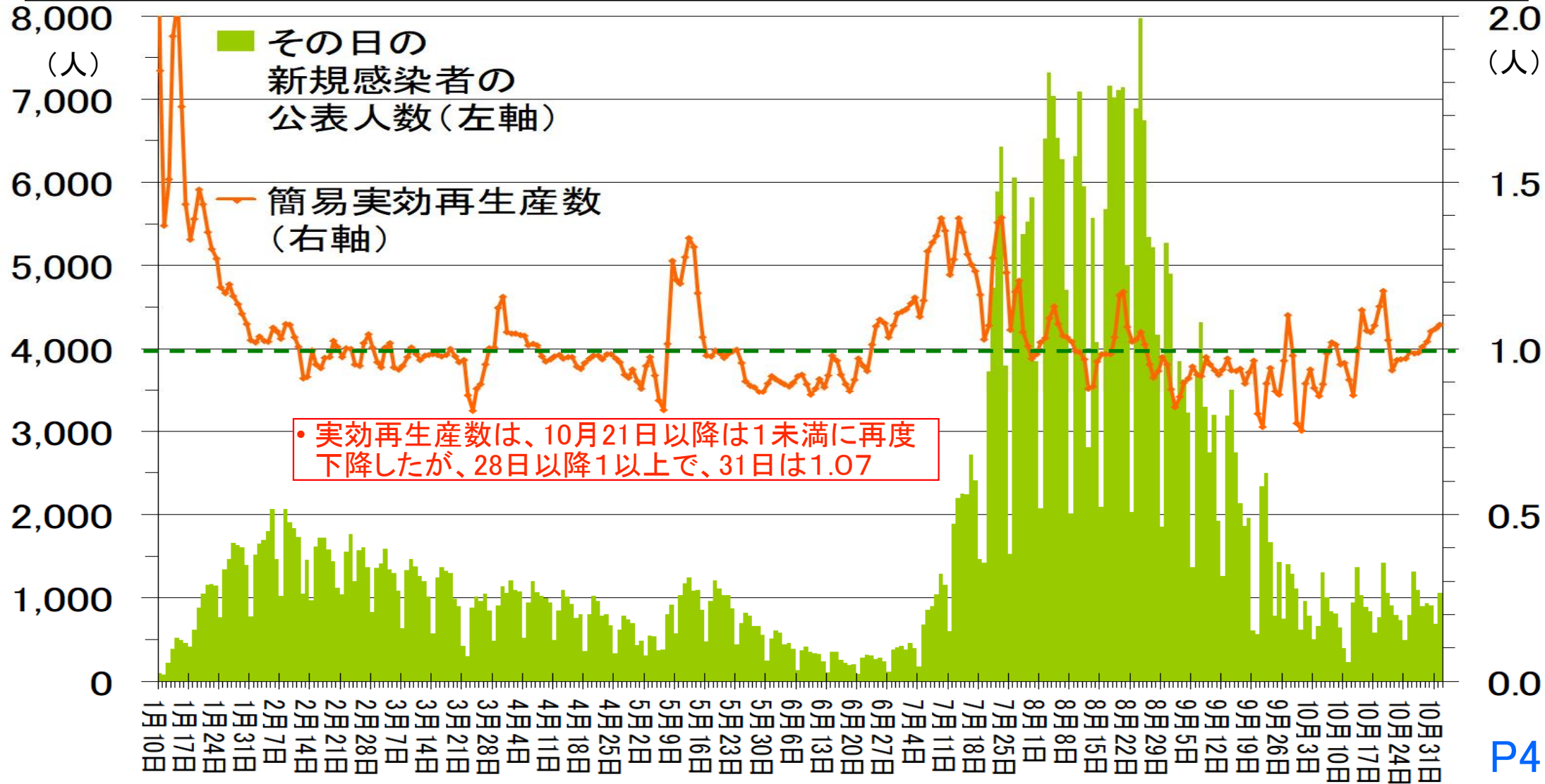


静岡県の第6波以降 これまでの全体像(1/1~11/1)

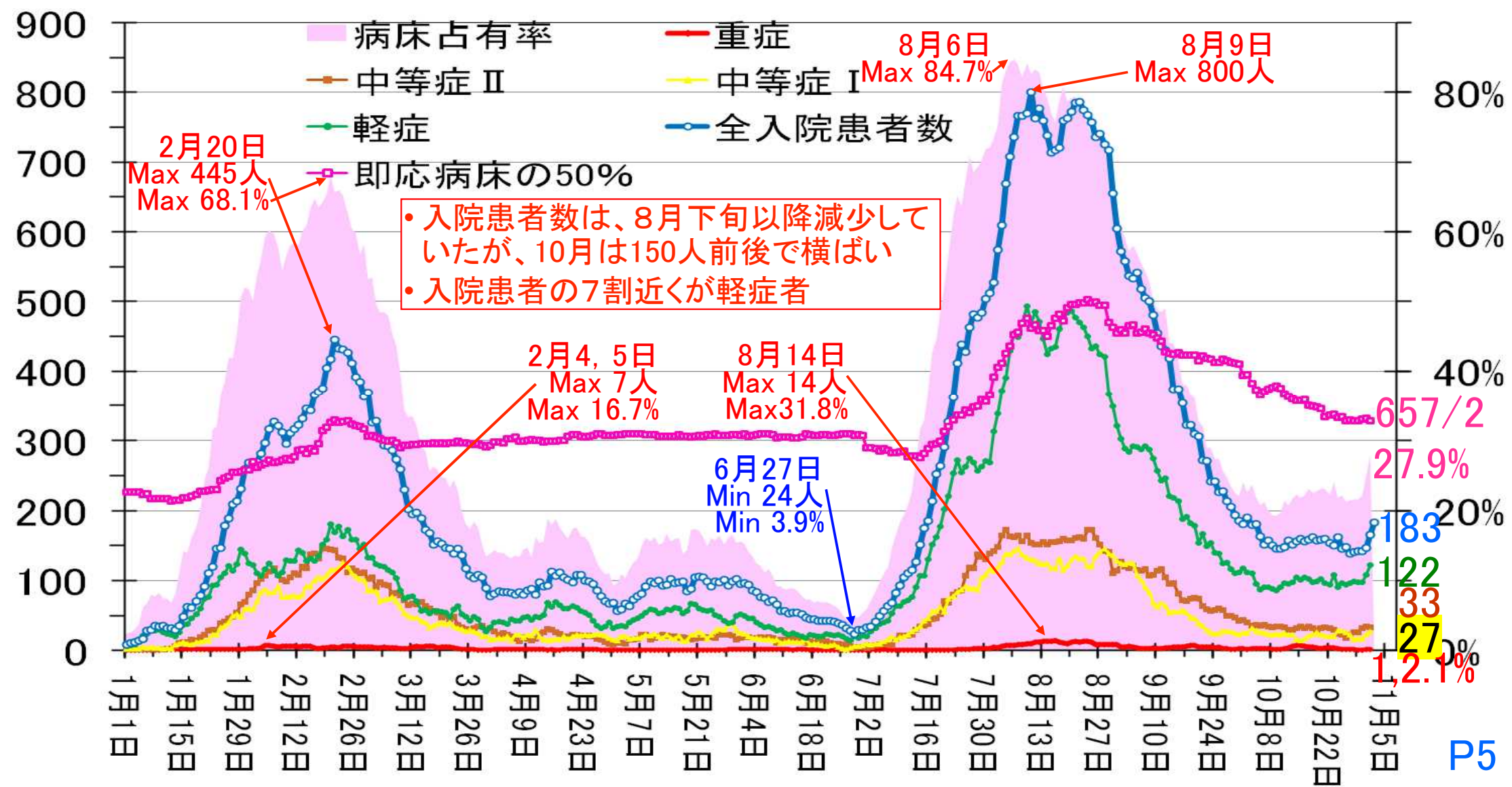


静岡県の新型コロナ新規感染者数と簡易実効再生産数(1/10~11/1)

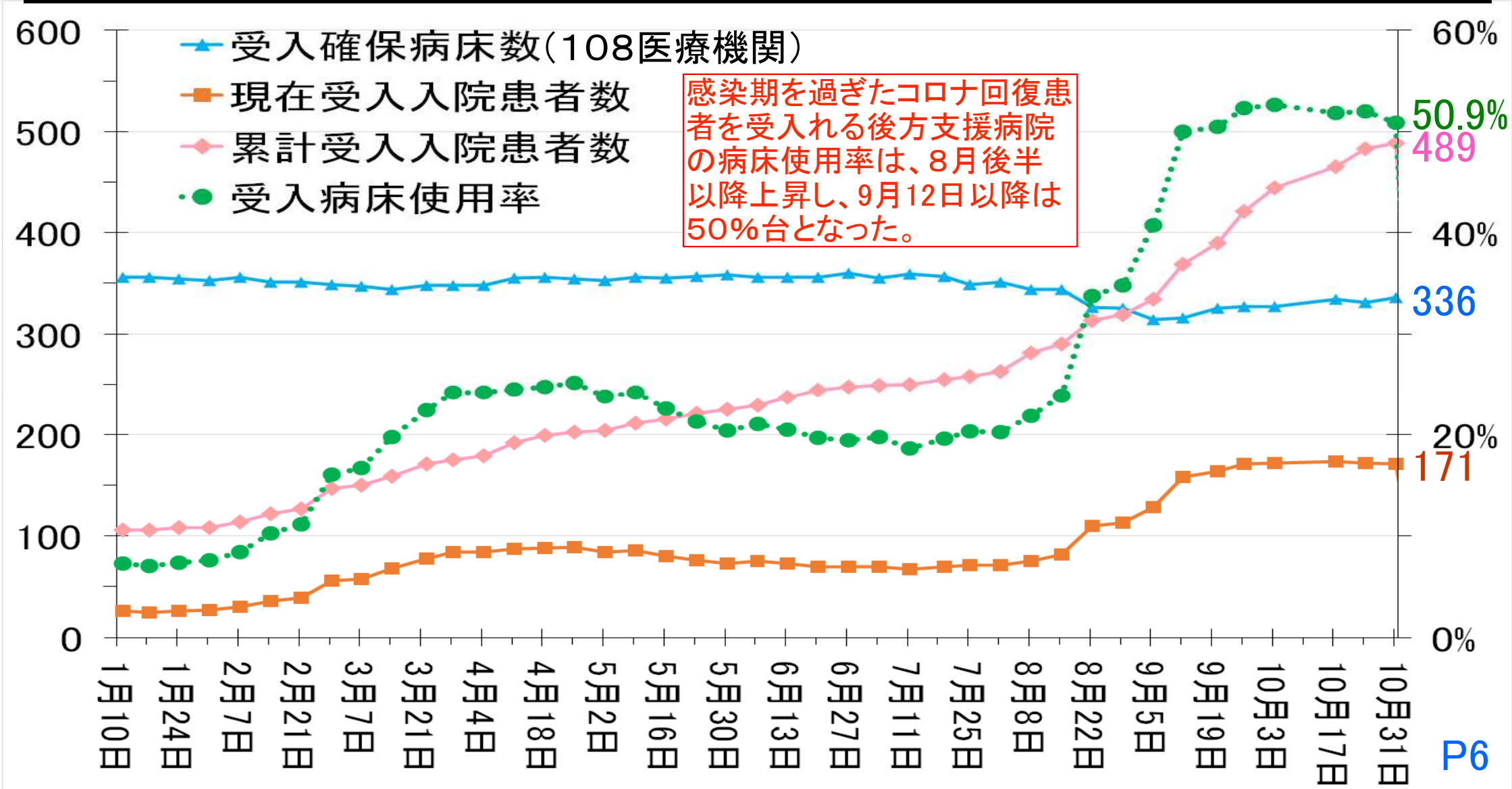
国立感染症研究所の報告に基づき、簡易実効再生産数を直近7日間の新規感染者数/(世代時間)日前7日間の新規感染者数とし、世代時間をオミクロン株で2日間として計算した



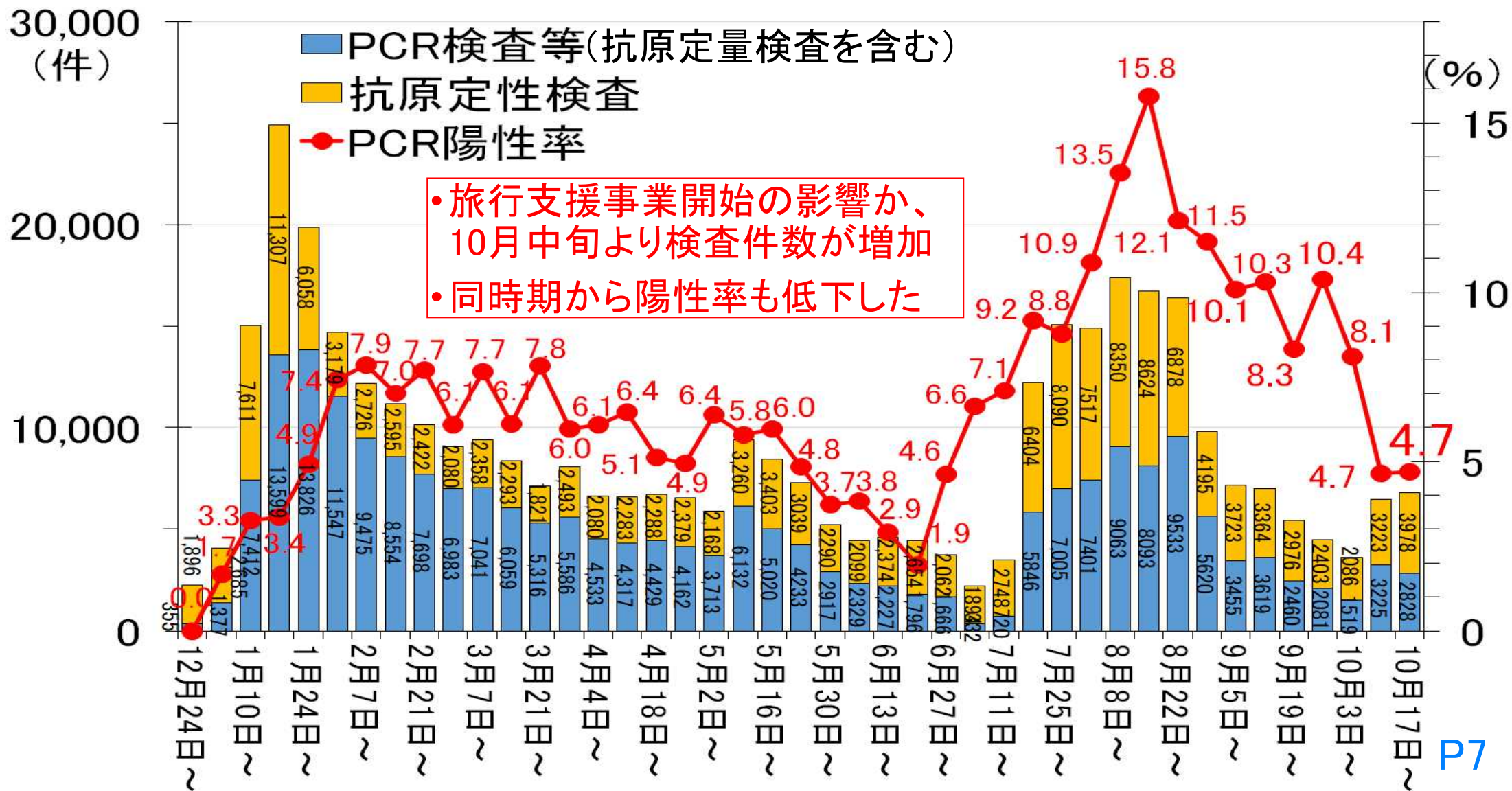
静岡県 コロナ受入病院 入院患者重症度別推移(1/1~11/1)



静岡県 コロナ後方支援病院等 回復患者入院推移(1/10~10/31)



静岡県 無料検査の検査件数と陽性率(2021.12/24~2022.10/23)

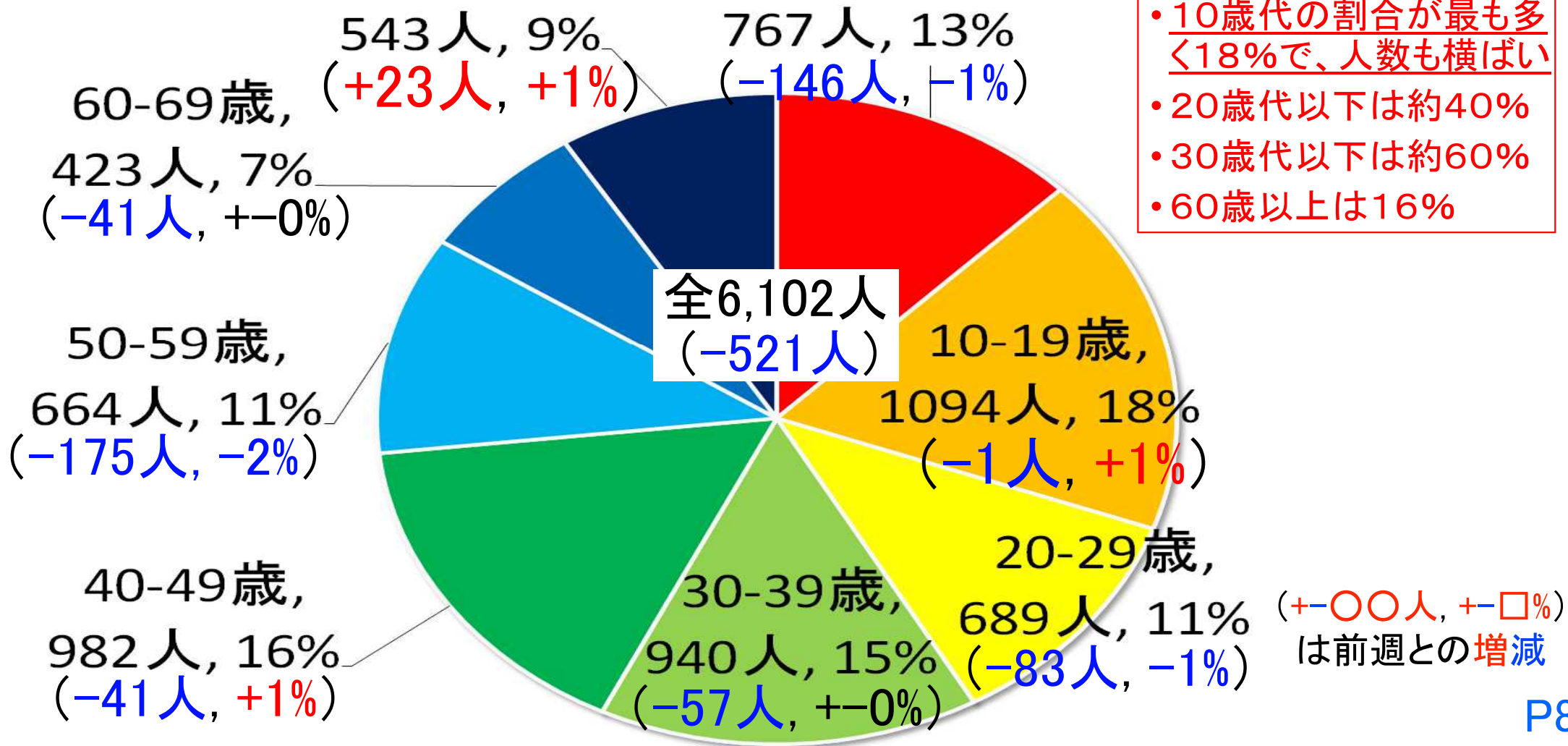


静岡県直近の年齢別感染者数・割合(10/21~27)

[政令市を含む全県] 70歳-

0-9歳,

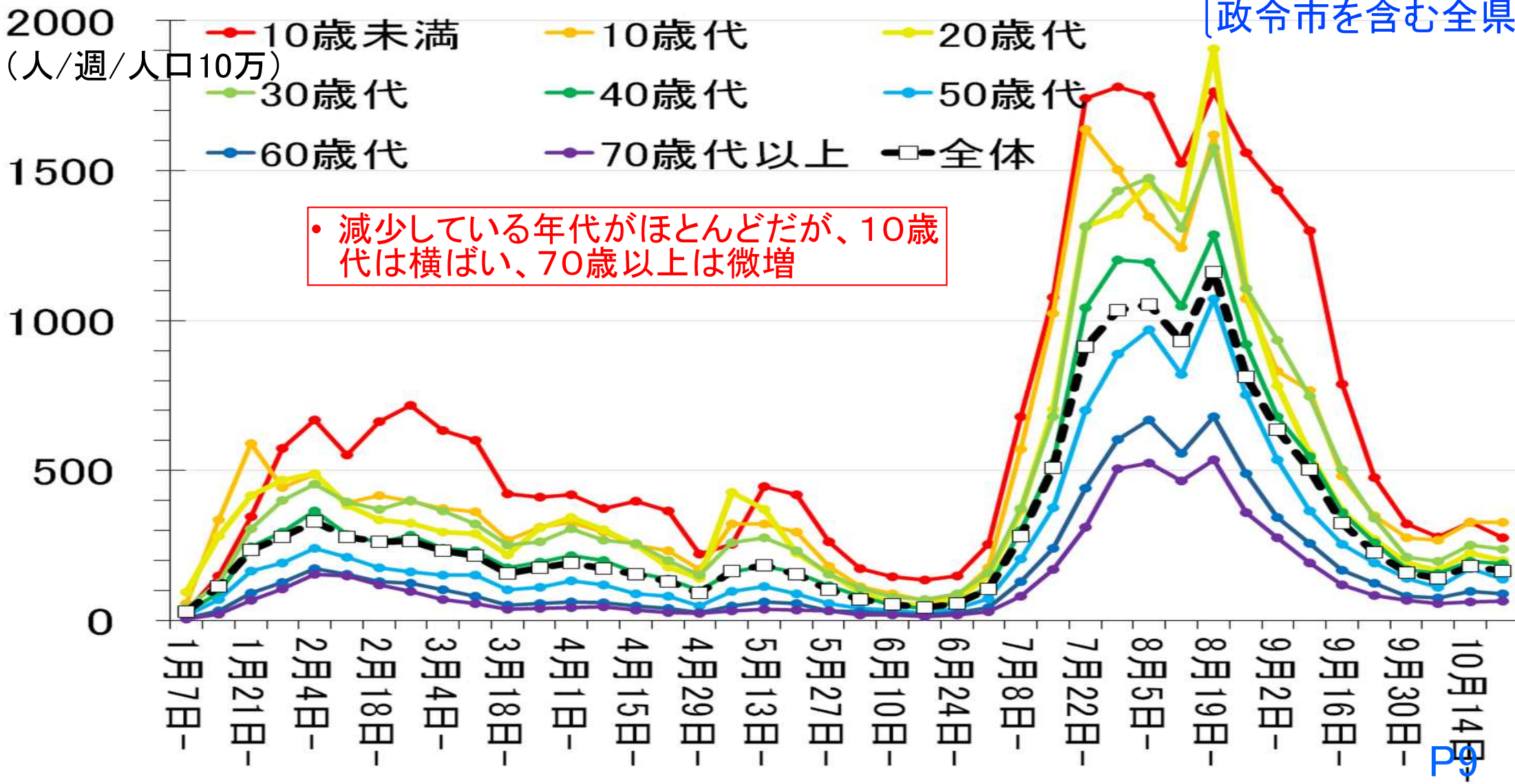
- 70歳以上のみが増加
- 10歳代の割合が最も多く18%で、人数も横ばい
- 20歳代以下は約40%
- 30歳代以下は約60%
- 60歳以上は16%



(+-〇〇人, +-□%)
は前週との増減

静岡県 年代別人口10万人あたり週感染者数(1/7~10/27)

(政令市を含む全県)

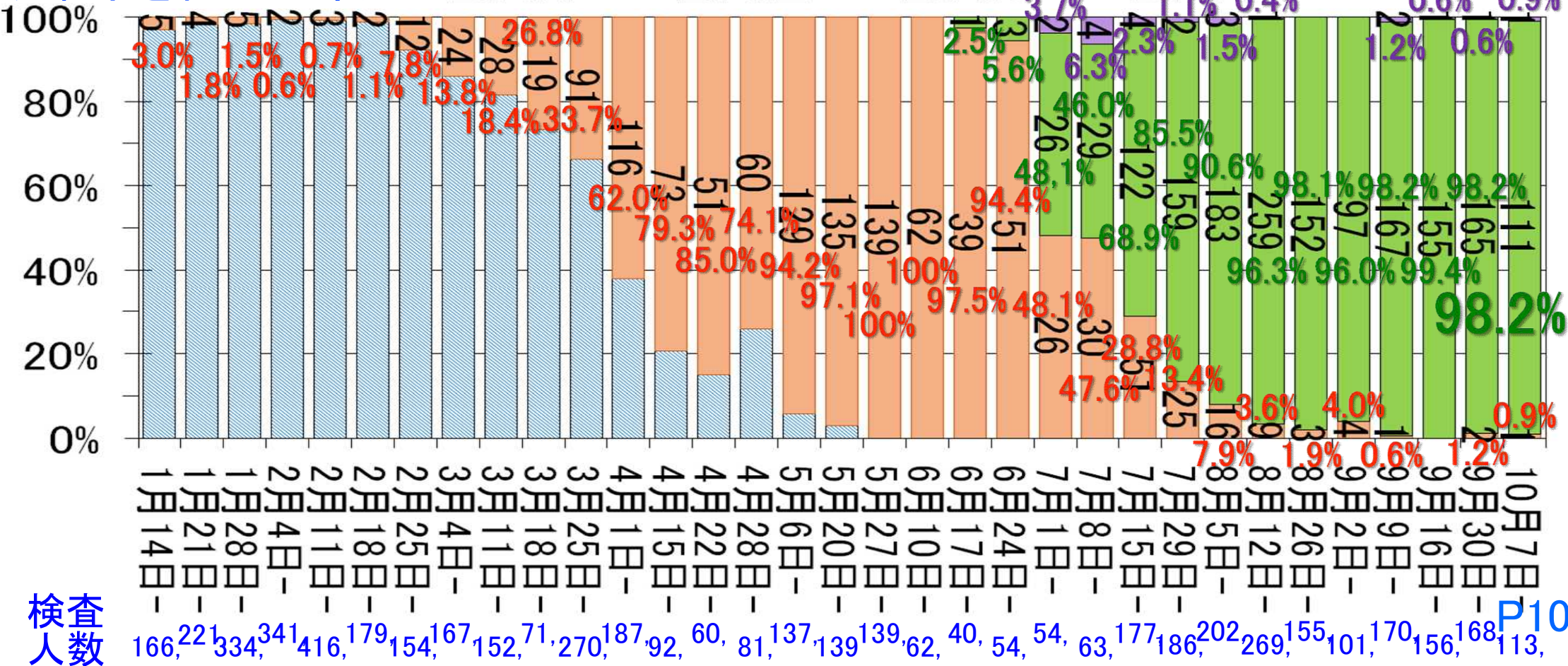


静岡県 オミクロン株亜系統の推移 (1/14~10/20)

オミクロン株全体の中でBA.2が占める割合は、2月下旬より増加し始めて、5月上旬に90%台となり、5月末には100%。一方6月中旬よりBA.5が検出され直近で96~99%。

〔政令市を含む全県〕

■ BA.1 ■ BA.2 ■ BA.5 ■ BA.4

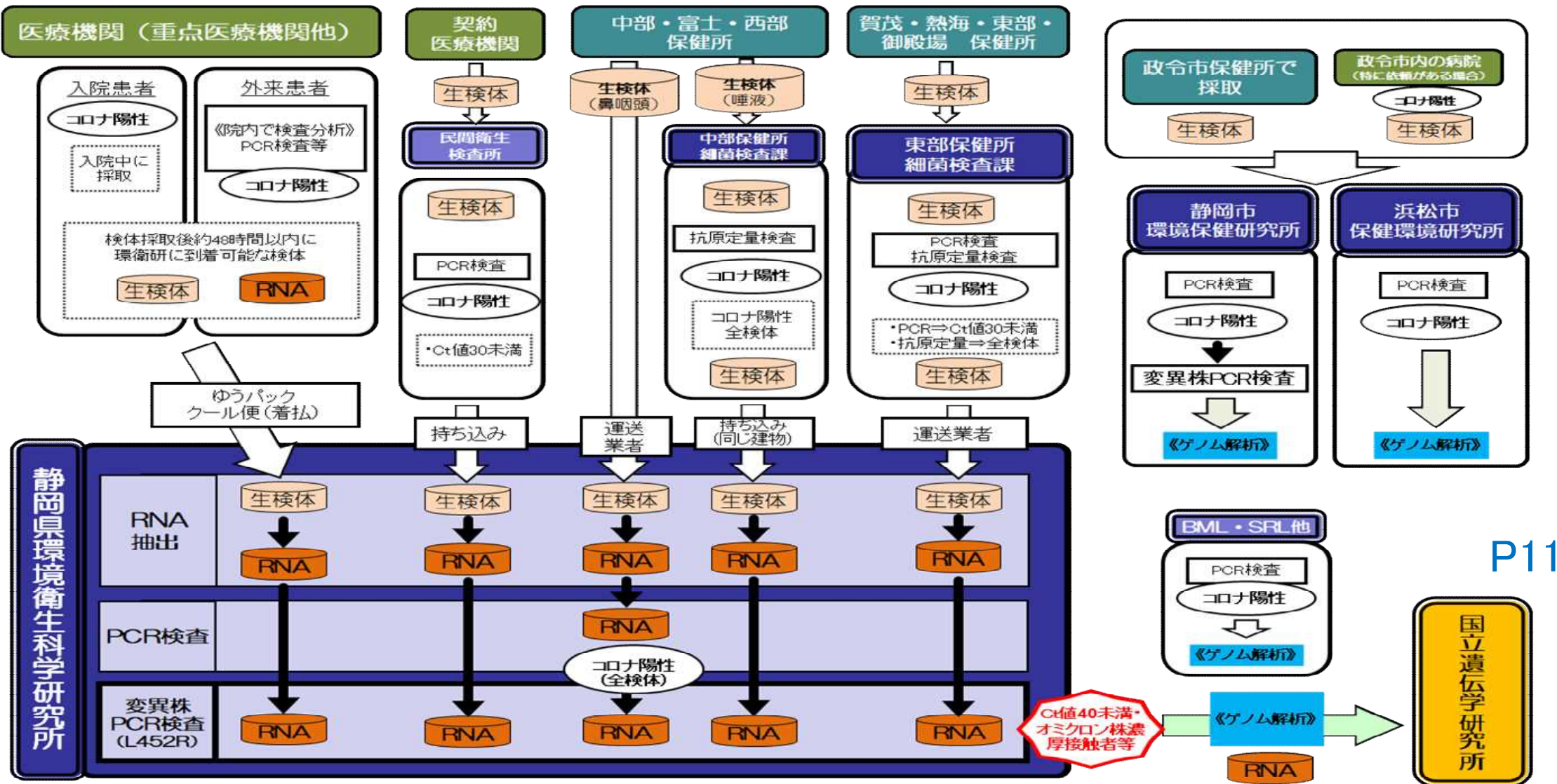


検査人数

P10

新型コロナウイルス変異株PCR検査・ゲノム解析 『県内の実施方法』

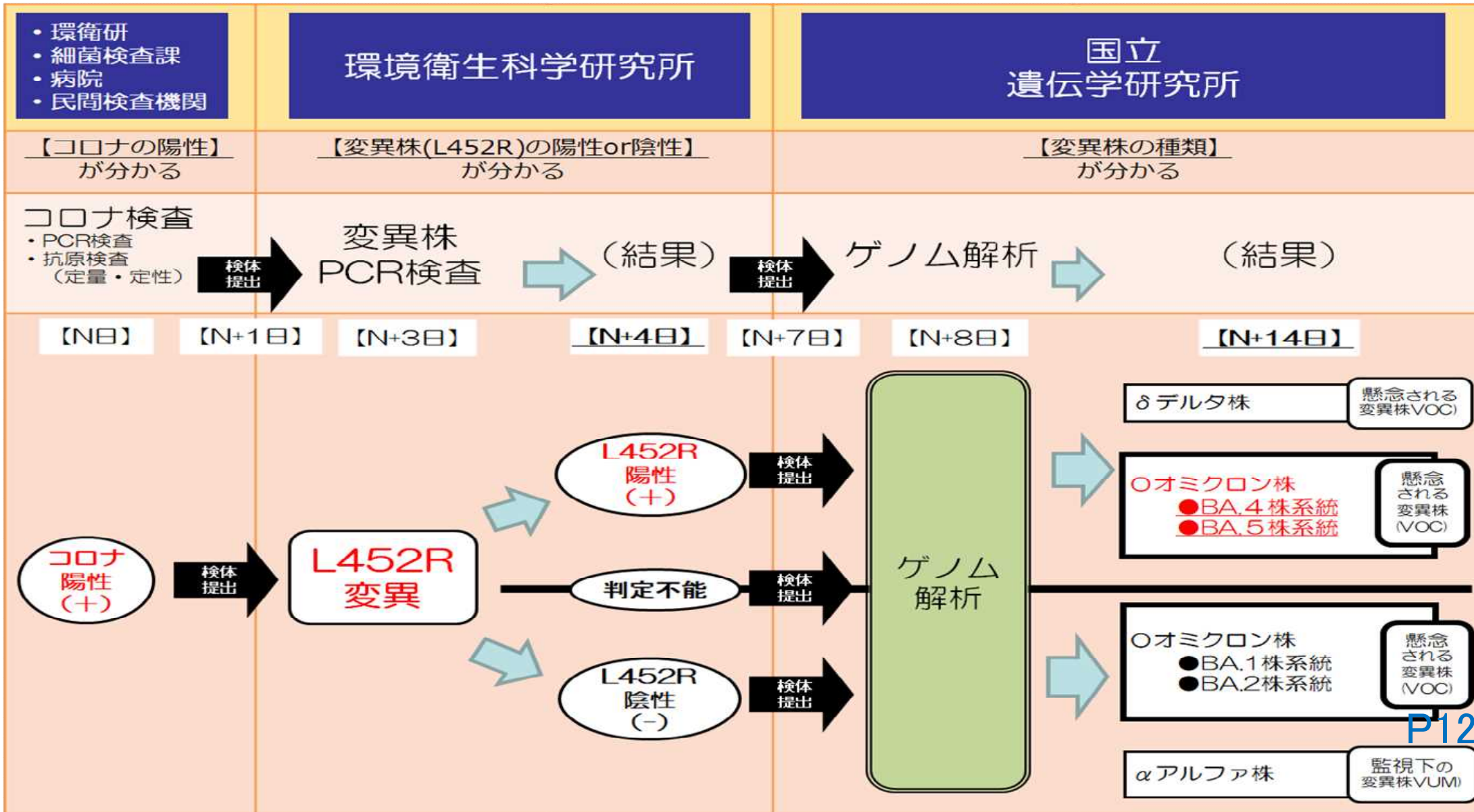
2022/10/31



P11

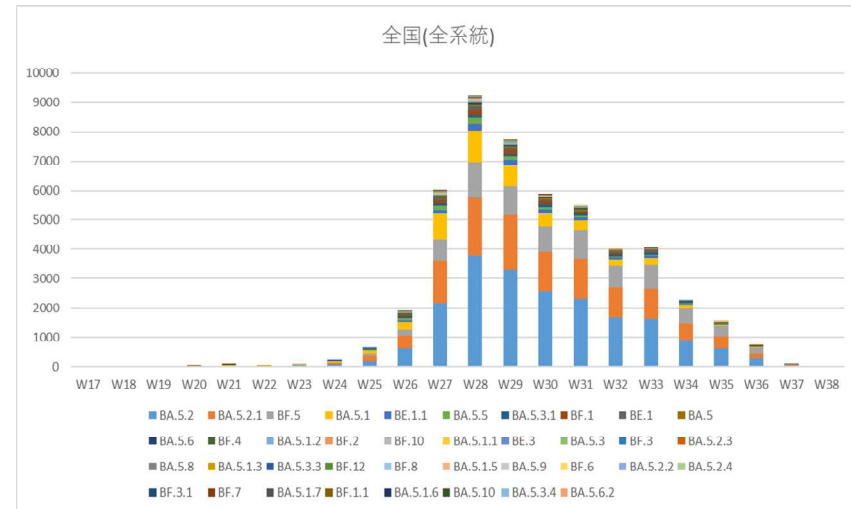
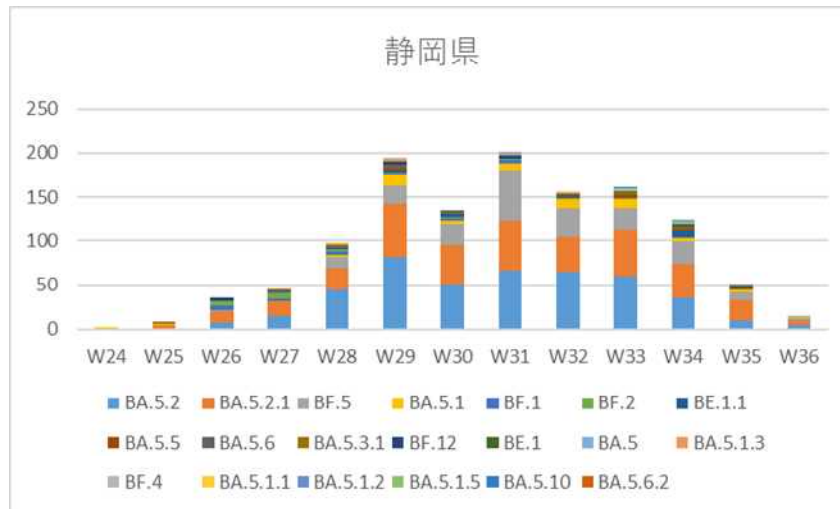
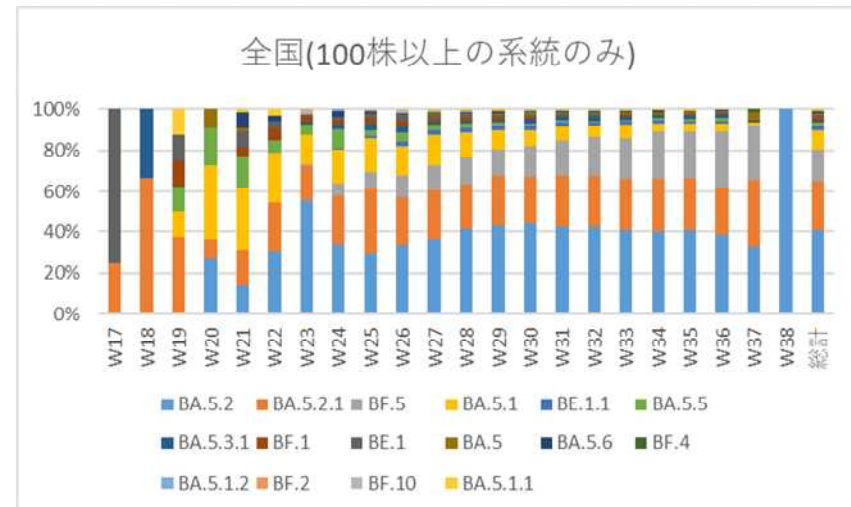
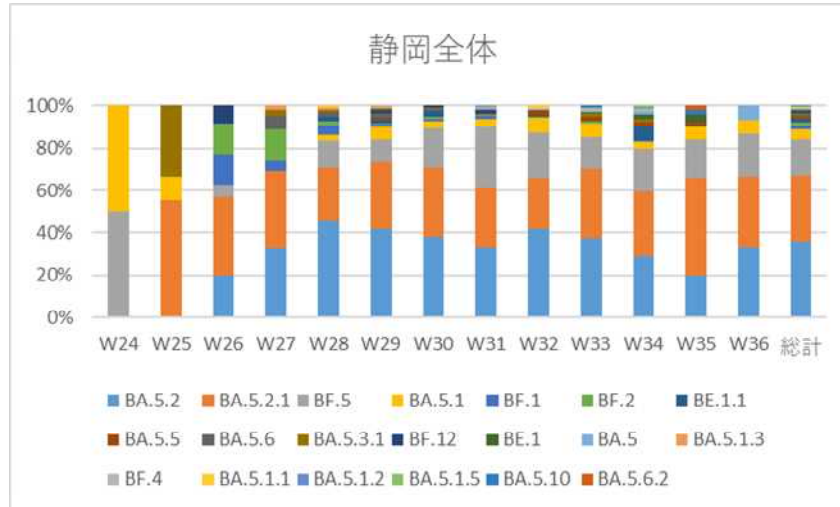
『新型コロナウイルス変異株PCR検査・ゲノム解析』解析までの流れ（県所管）

2022/10/31現在



静岡県と全国 オミクロン株亜系統の推移 (2022.6月～9月)

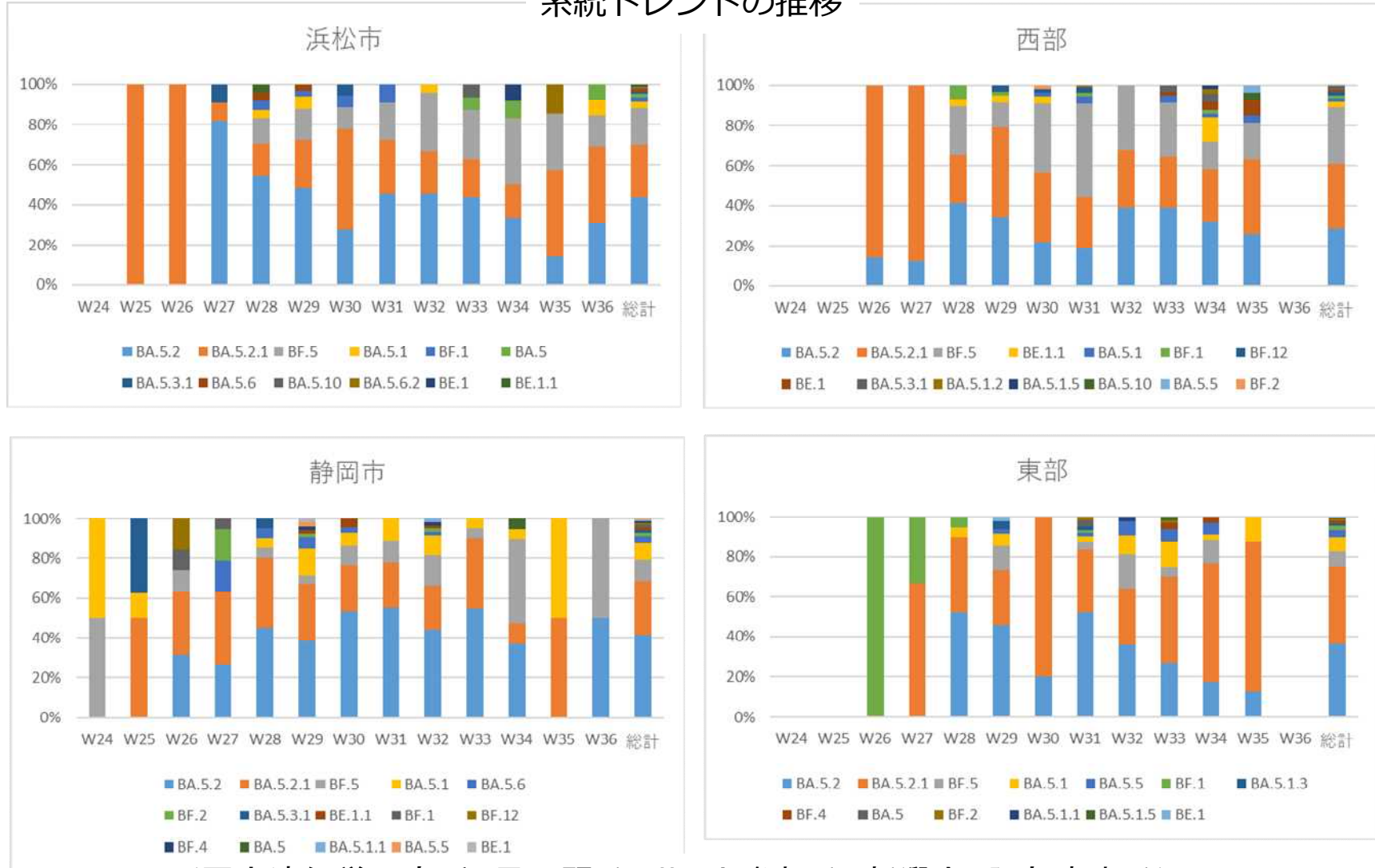
系統トレンドの推移



(国立遺伝学研究所 黒川顕氏、井ノ上逸郎氏、新潟大 阿部貴志氏)

静岡県 地域別オミクロン株亜系統の推移 (2022.6月～9月)

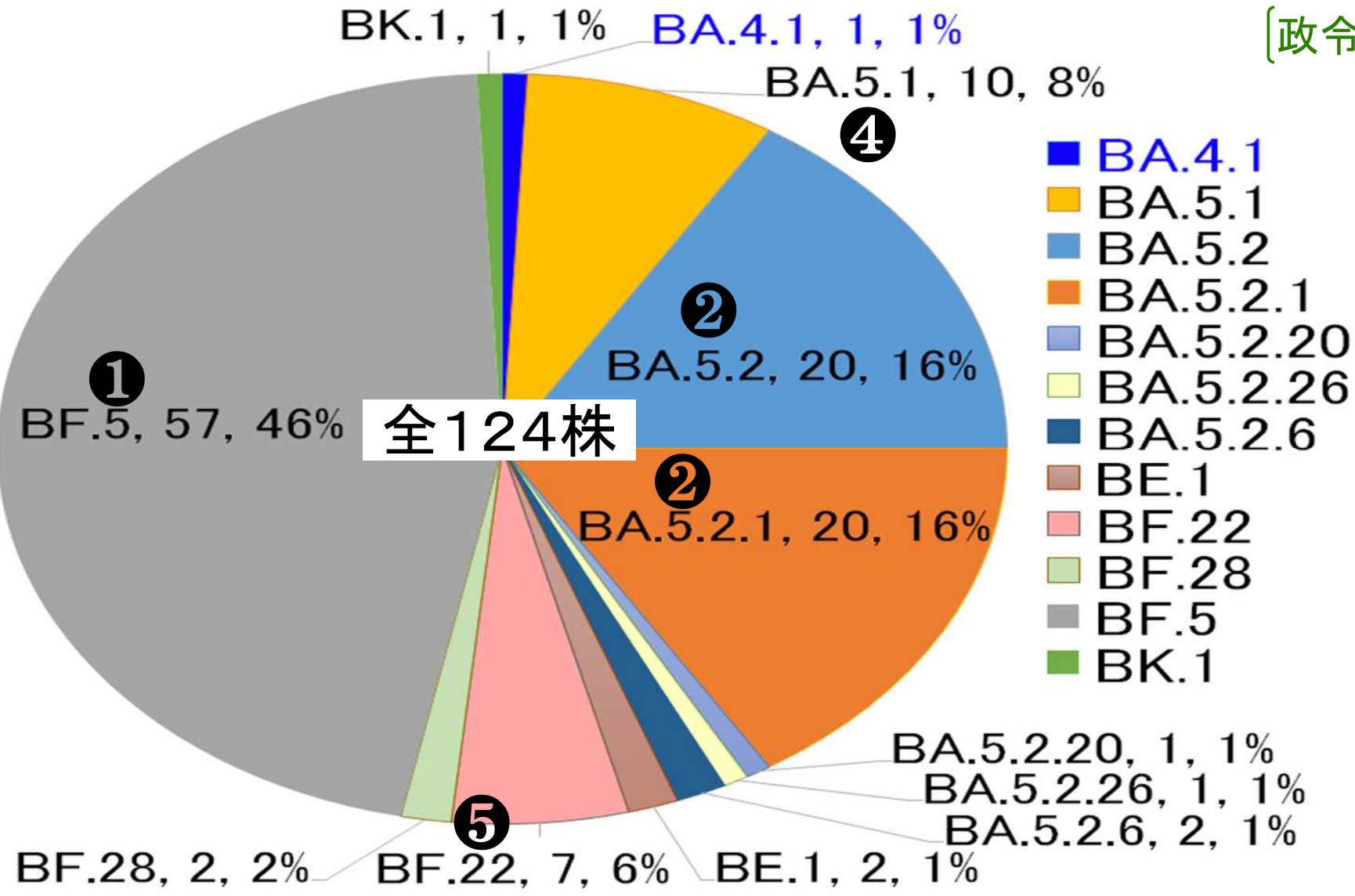
系統トレンドの推移



(国立遺伝学研究所 黒川顕氏、井ノ上逸郎氏、新潟大 阿部貴志氏)

静岡県 ゲノム解析によるオミクロン株亜系統の状況 (2022.10月)

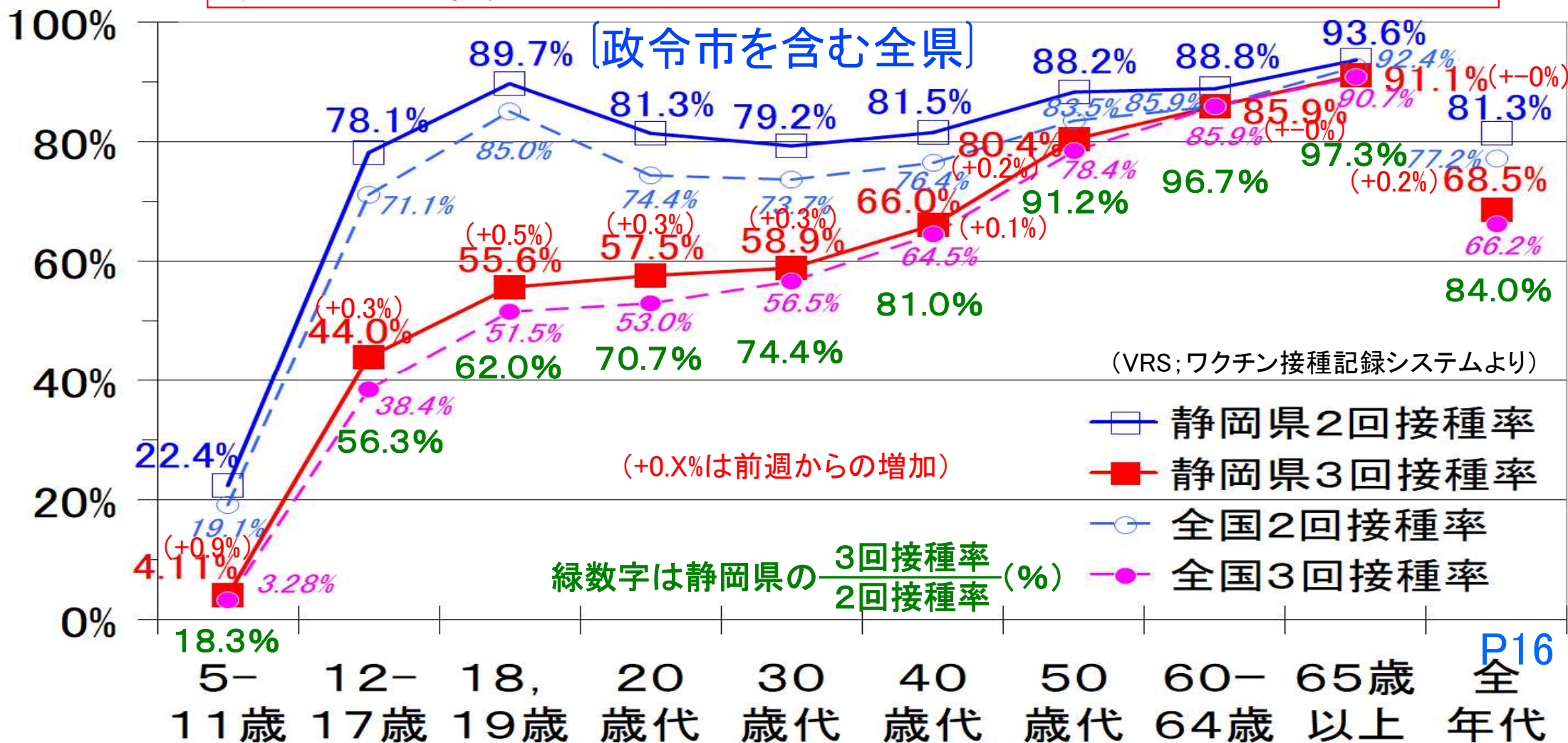
[政令市を除く県所管地域]



- BA.4.1が1株ある
 以外は全てBA.5の
 亜系統で、他国で
 優位になりつつあ
 る亜系統は見つ
 かっていない
- BF.5が約半数を占
 め、最多
- 次がBA.5.2と
 BA.5.2.1が同率
 16%
- その次は、BA.5.1
 が8%、BF.22(日
 本固有の亜系統)
 が6%
- その他は各1,2件
 ずつ

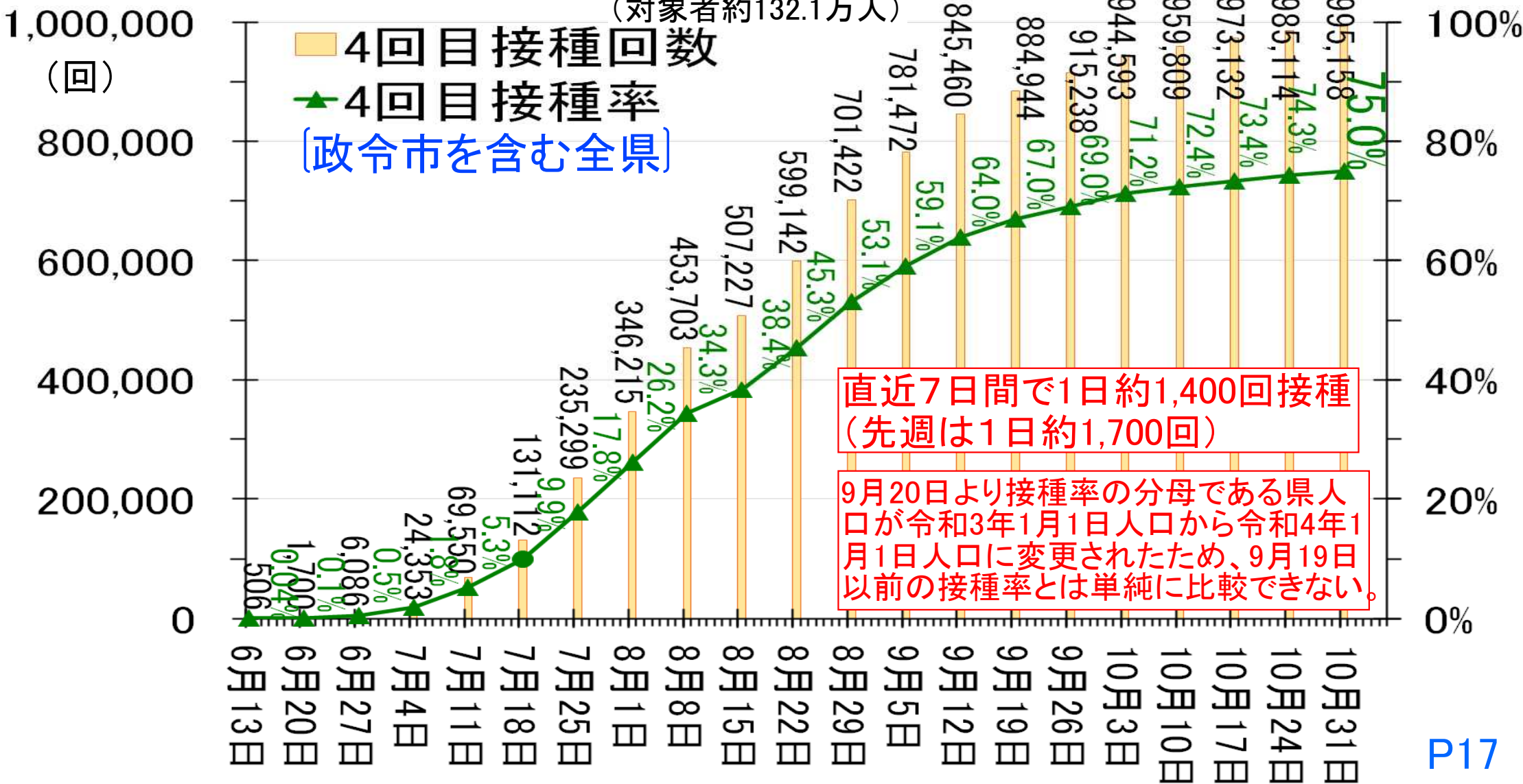
県と国 コロナワクチン2,3回目年代別接種率 (10/31時点)

- ・県の3回接種率を全国と比べると、60～64歳を除いて全国より高い(0.4～5.6ポイント高い)
- ・県の年代別3回接種率は、30歳代以上はほとんど上昇していない

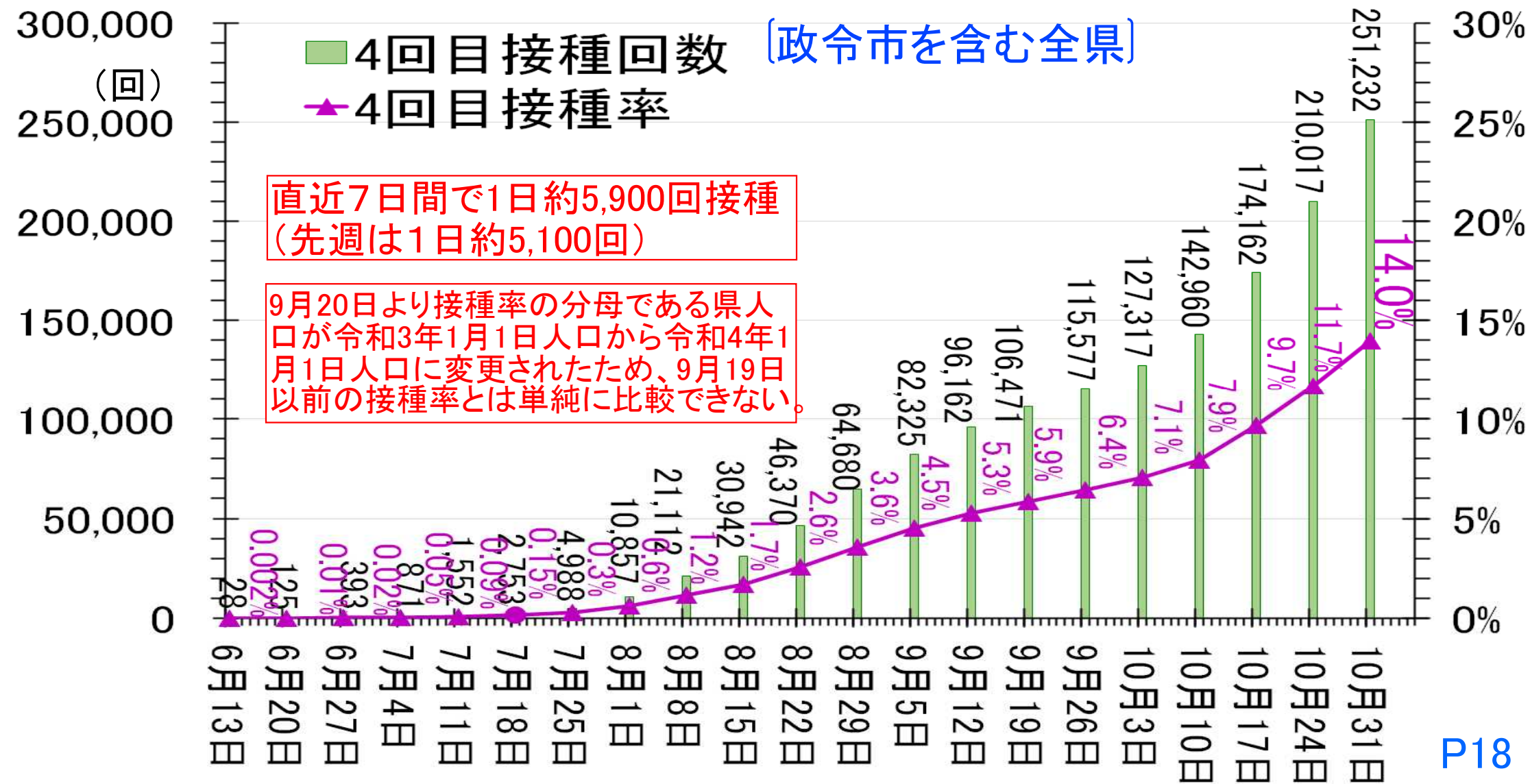


静岡県 コロナワクチン4回目接種状況 60歳以上(6/13～10/31)

(対象者約132.1万人)

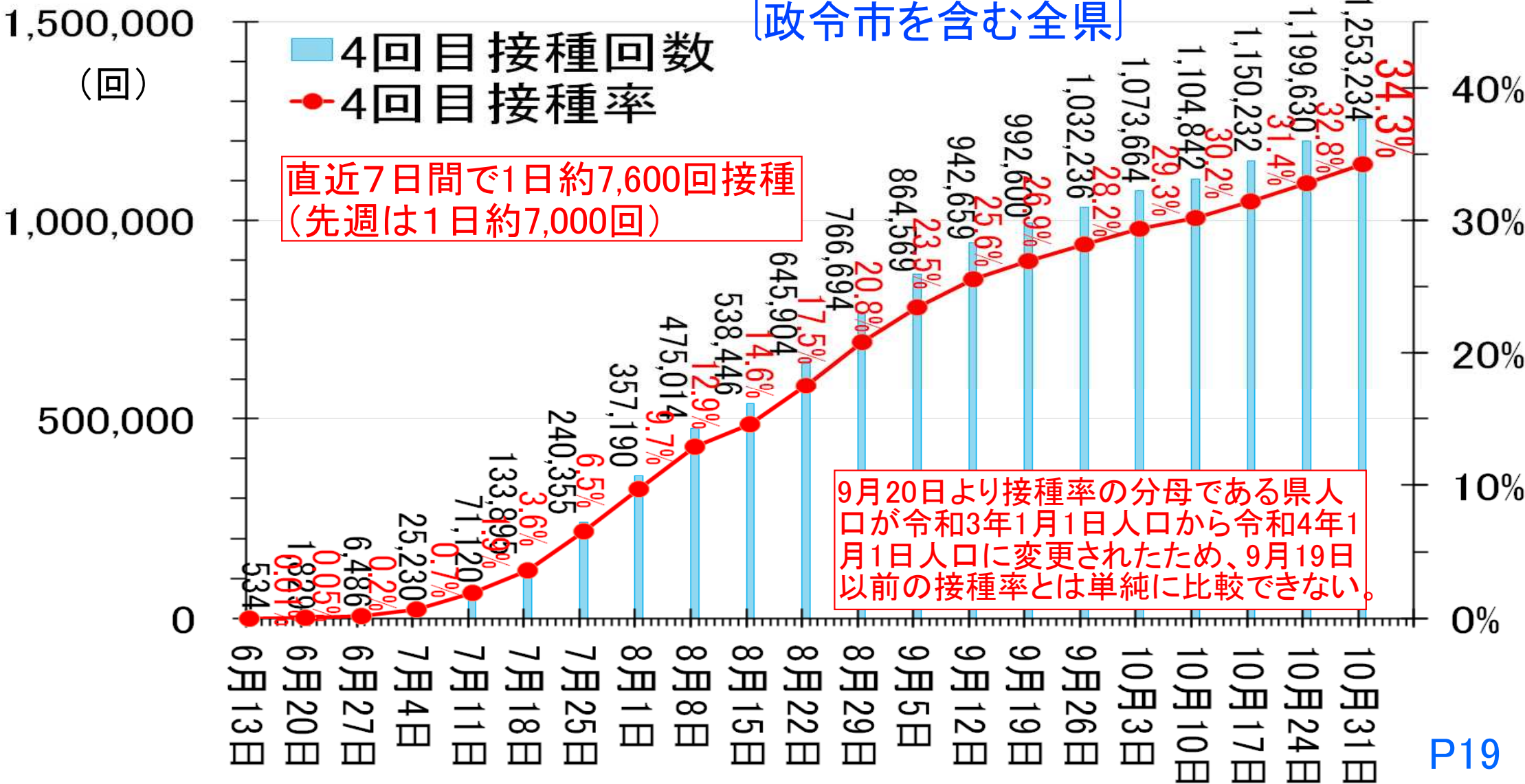


静岡県 コロナワクチン4回目接種状況 18～59歳(6/13～10/31)

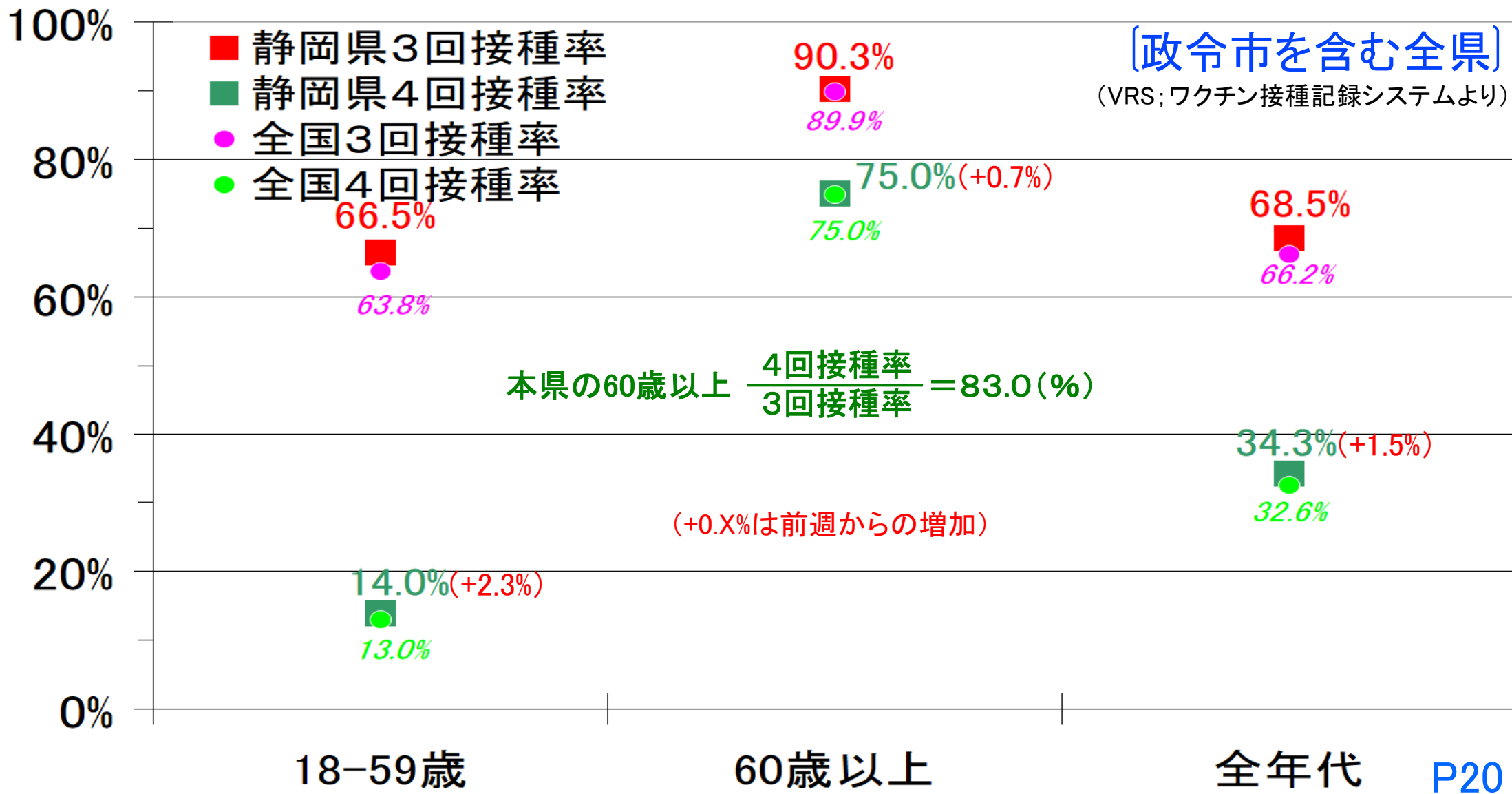


静岡県 コロナワクチン4回目接種状況 全年代(6/13~10/31)

(政令市を含む全県)



県と国 コロナワクチン4回目年代別接種率（11/1時点）

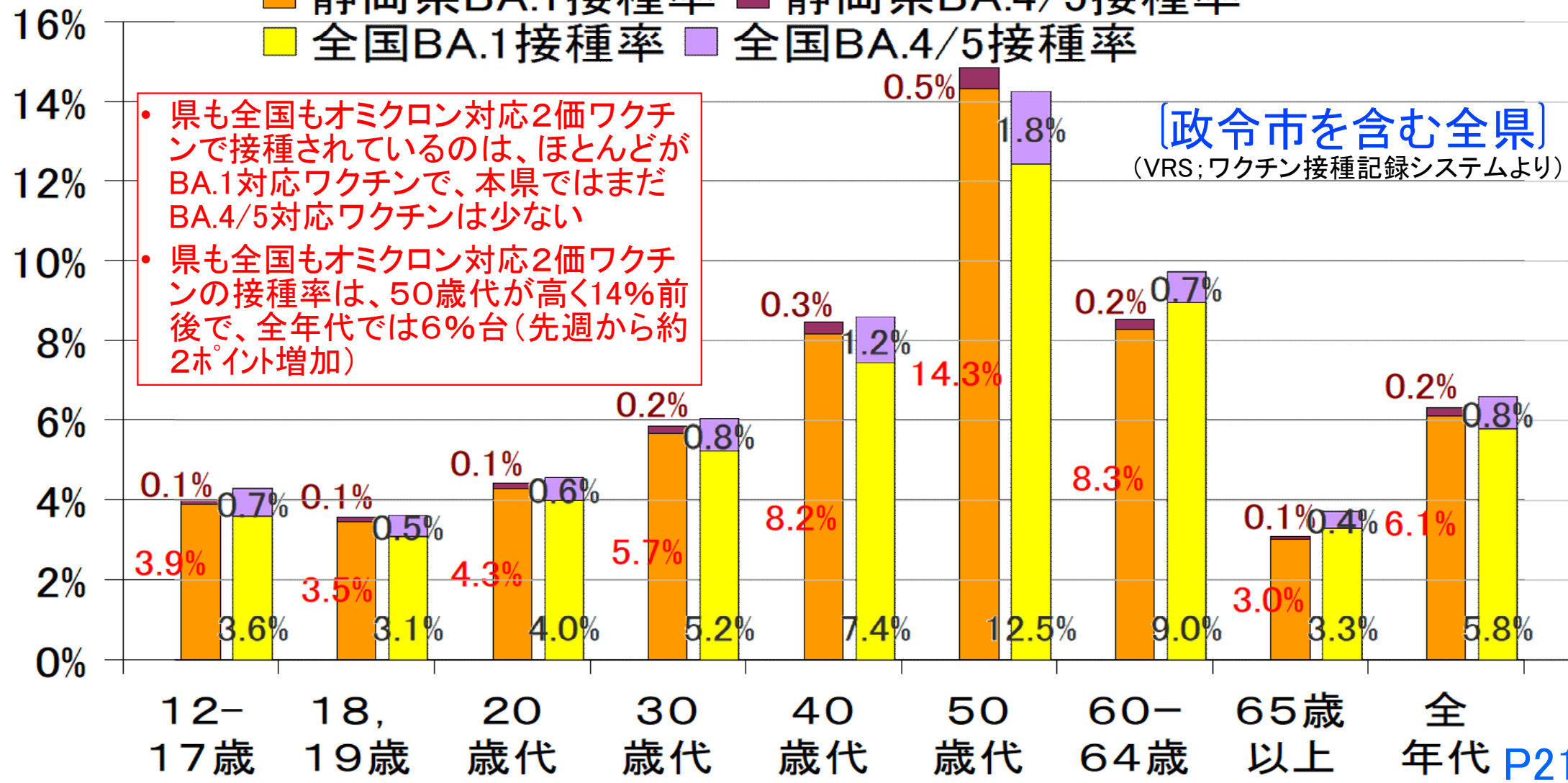


県と国 オミكرون対応ワクチン年代別接種率（11/1時点）

■ 静岡県BA.1接種率 ■ 静岡県BA.4/5接種率
■ 全国BA.1接種率 ■ 全国BA.4/5接種率

- 県も全国もオミكرون対応2価ワクチンで接種されているのは、ほとんどがBA.1対応ワクチンで、本県ではまだBA.4/5対応ワクチンは少ない
- 県も全国もオミكرون対応2価ワクチンの接種率は、50歳代が高く14%前後で、全年代では6%台（先週から約2ポイント増加）

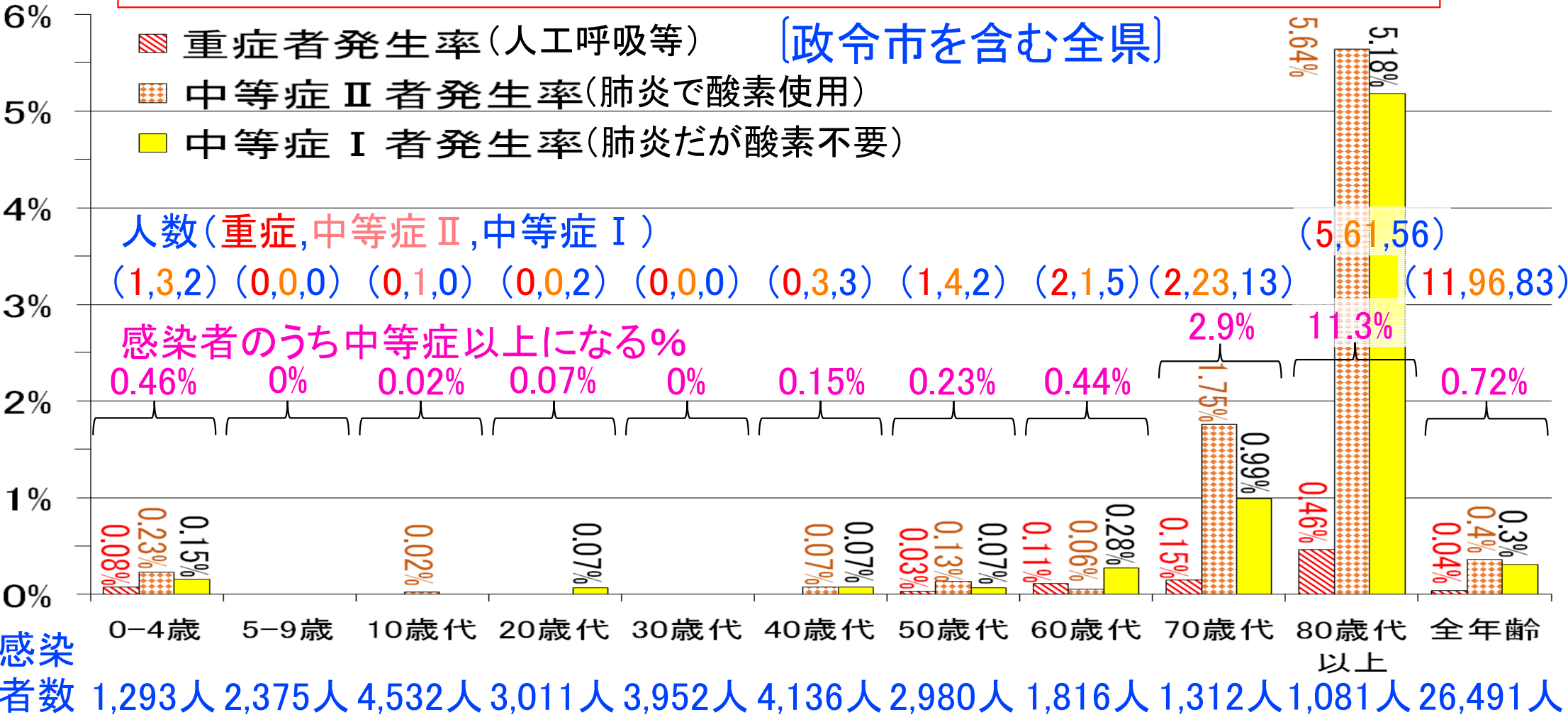
〔政令市を含む全県〕
 （VRS; ワクチン接種記録システムより）



静岡県 コロナBA.5期 年代別感染者の中等症以上発生率等(10/1~10/31)

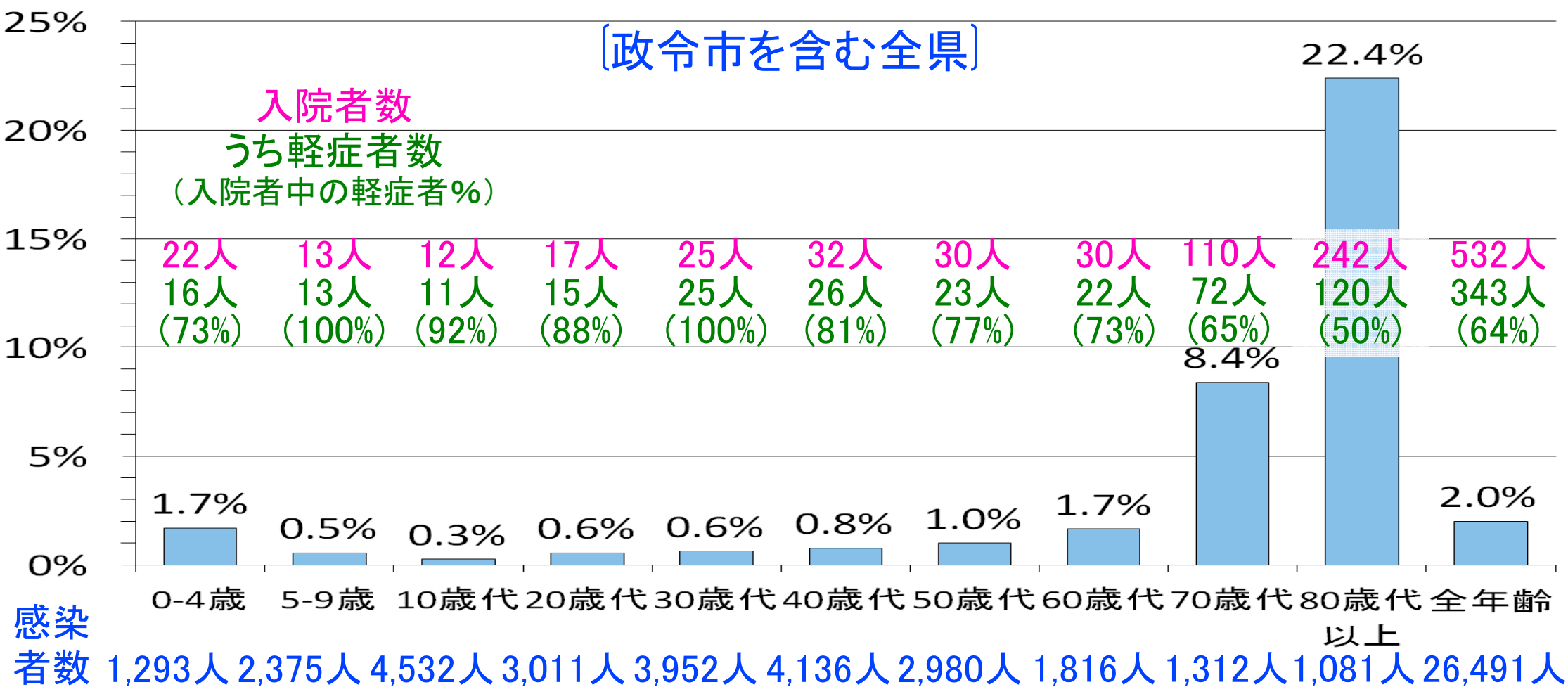
- 全体での中等症以上の発生率は約0.7%、中等症Ⅱ約0.4%、重症0.04%
- 80歳以上の感染者の約11%は中等症以上、約6%は中等症Ⅱ以上

P22



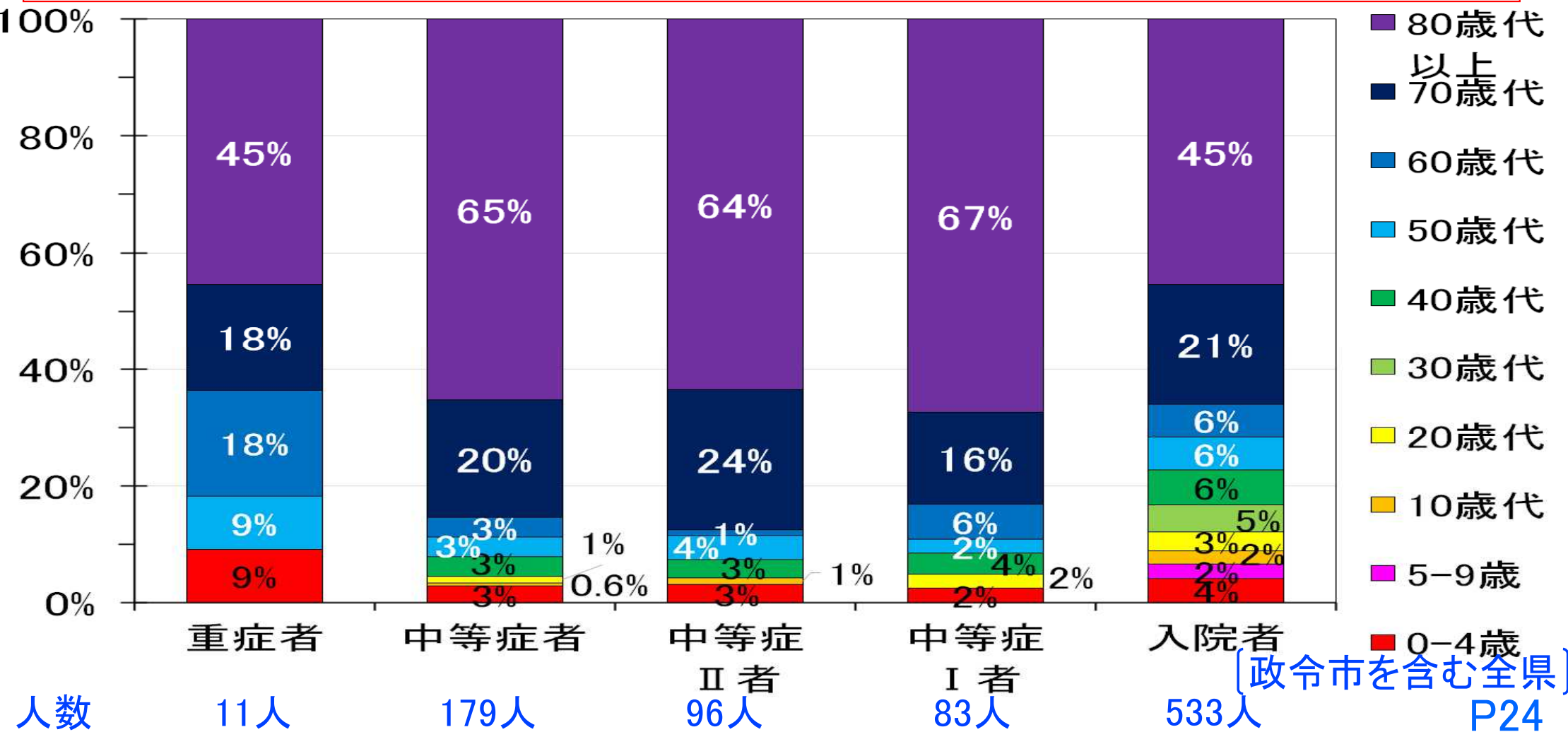
静岡県 コロナBA.5期 年代別感染者の入院率(10/1～10/31)

- 全年齢の感染者での入院率は2.0%で、そのうち64%がコロナは軽症での入院。 P23
- 年代別の入院率では、10歳代が最も低く0.3%、80歳以上が最も高く22.4%。



静岡県 コロナBA.5期の重症度別感染者の年代分布(10/1~10/31)

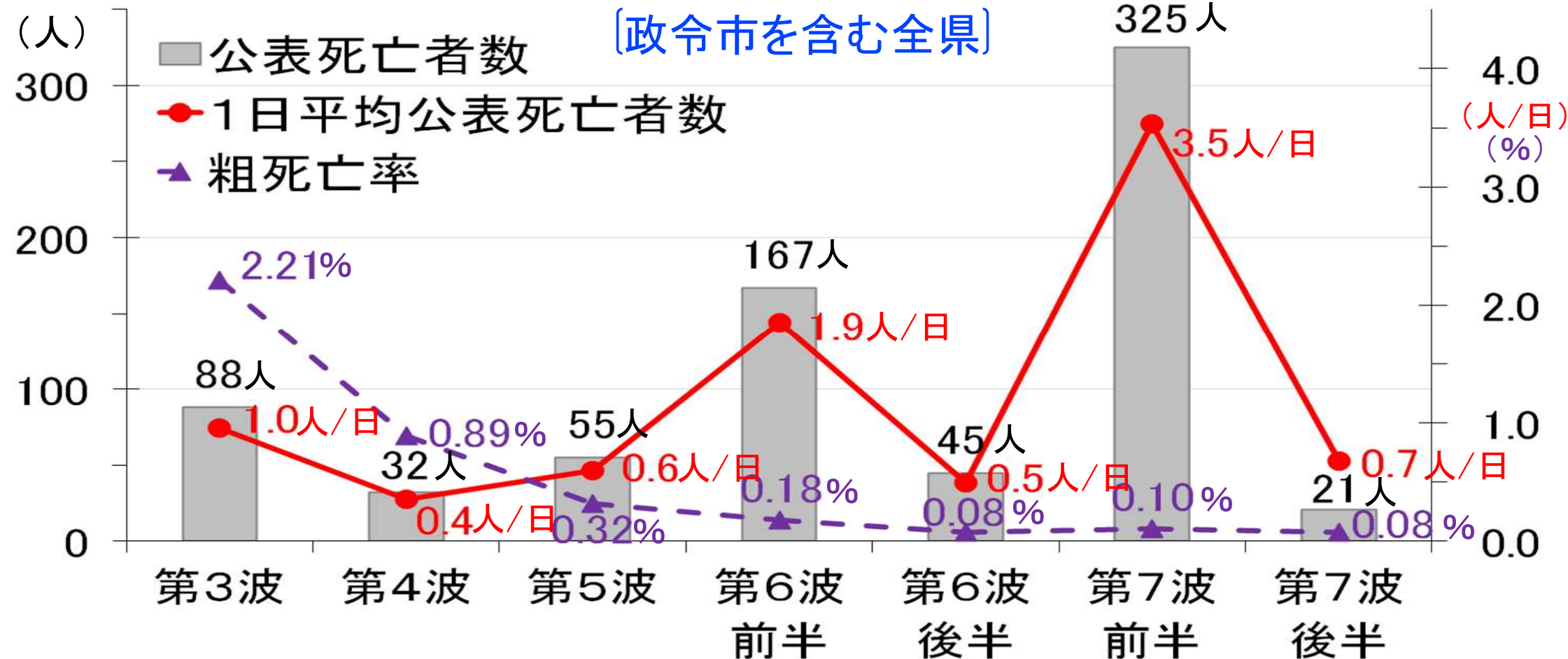
- 重症者11人中、80歳代以上5人、70歳代2人、60歳代2人、50歳代1人、0-4歳1人
- 70歳以上が、中等症者、中等症Ⅱ者、中等症Ⅰ者の約80%、重症者の約60%、入院者の約70%を占める



[政令市を含む全県] P24

静岡県 新型コロナ第3波～BA.5波の死亡者数(～10/31)

[政令市を含む全県]

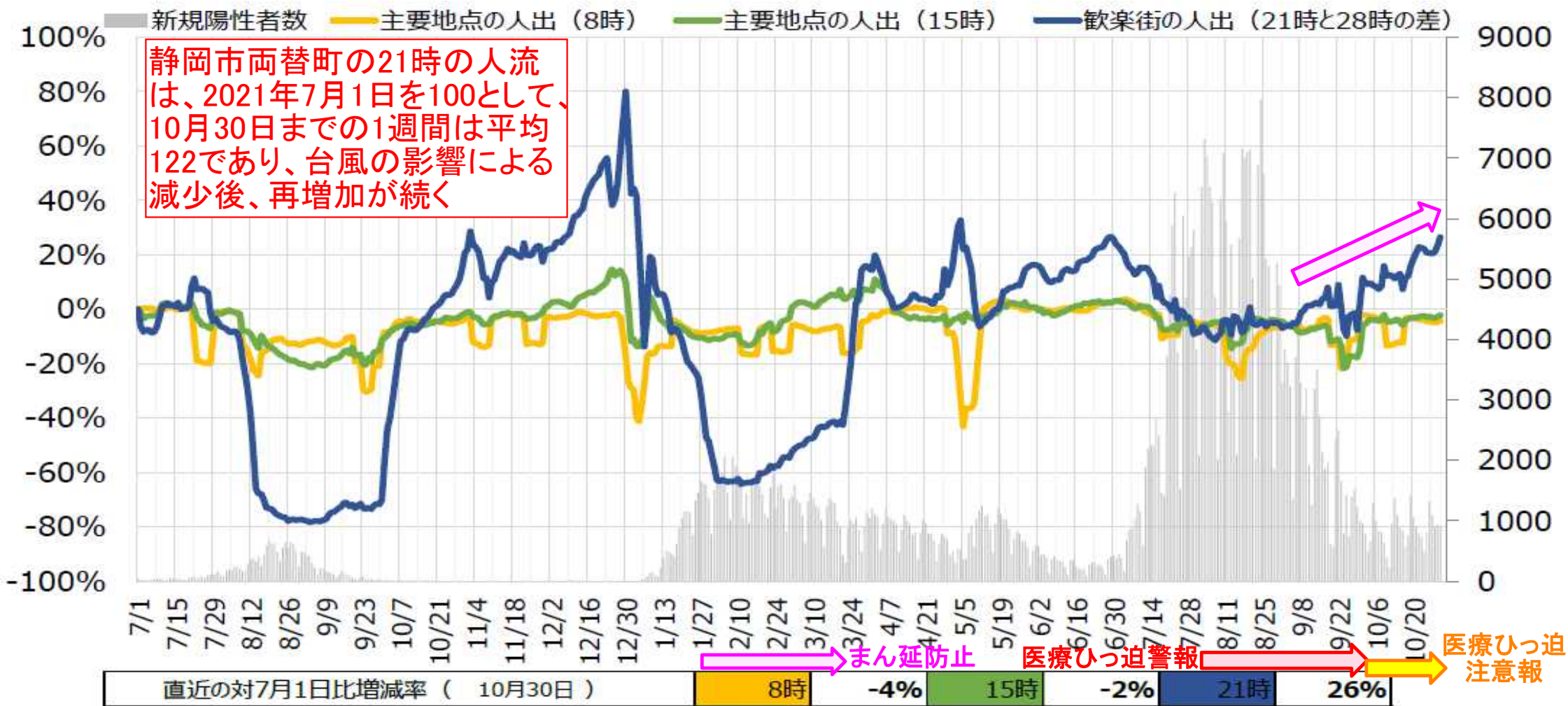


従来株主体 アルファ株主体 デルタ株主体 オミクロンBA.1株主体 BA.2株主体 BA.5株主体

2020.11.16～21.2.15 21.4.1～6.30 21.7.1～9.30 22.1.1～3.31 22.4.1～6.30 22.7.1～9.30 22.10.1～10.31時点

感染者数 3,975人 3,603人 17,289人 94,945人 57,596人 313,739人 26,491人 P25

静岡市両替町の人流の状況（10/30時点）



※グラフは、7月1日時点の人流の後方7日間移動平均（6月25日～7月1日の平均値）に対する、各日の後方7日間移動平均の増減率

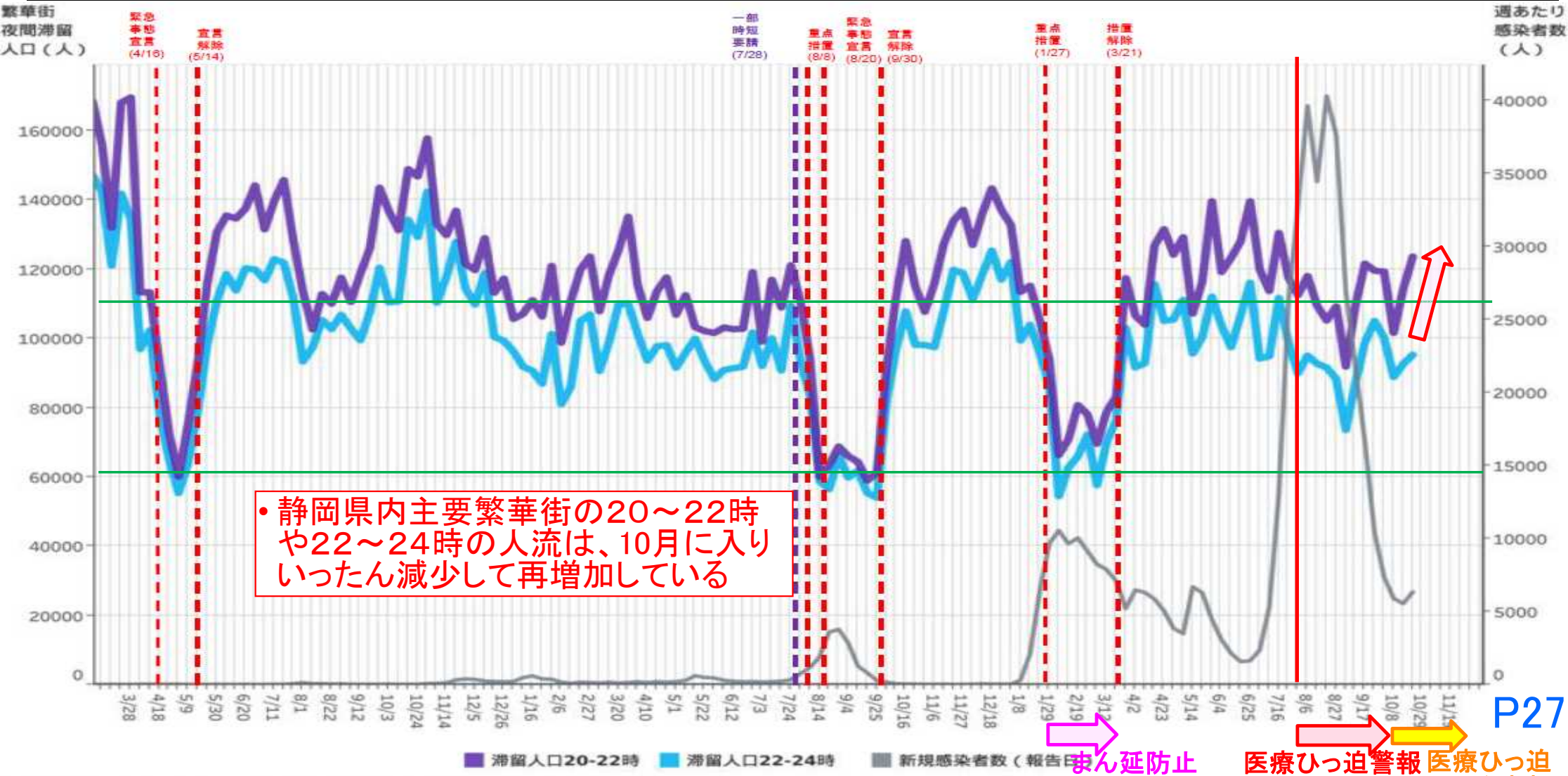
（主要地点：静岡駅周辺、歓楽街：静岡両替町）

モバイル空間統計© データ提供元：(株)NTTドコモ、(株)ドコモ・インサイトマーケティング ※「モバイル空間統計©」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

医療ひっ迫
注意報

P26

静岡県 掛川駅,沼津駅,静岡駅,浜松駅,富士市吉原の人流の状況 (10/22時点)



対象都道府県：22 静岡県

対象繁華街：掛川駅・沼津駅南・静岡駅・浜松駅・富士市吉原

都道府県別新規感染者数出典：厚生労働省「新規陽性者数の推移(日別)」 <https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/open-data.html>

LocationMind xPop © LocationMind Inc.

P27

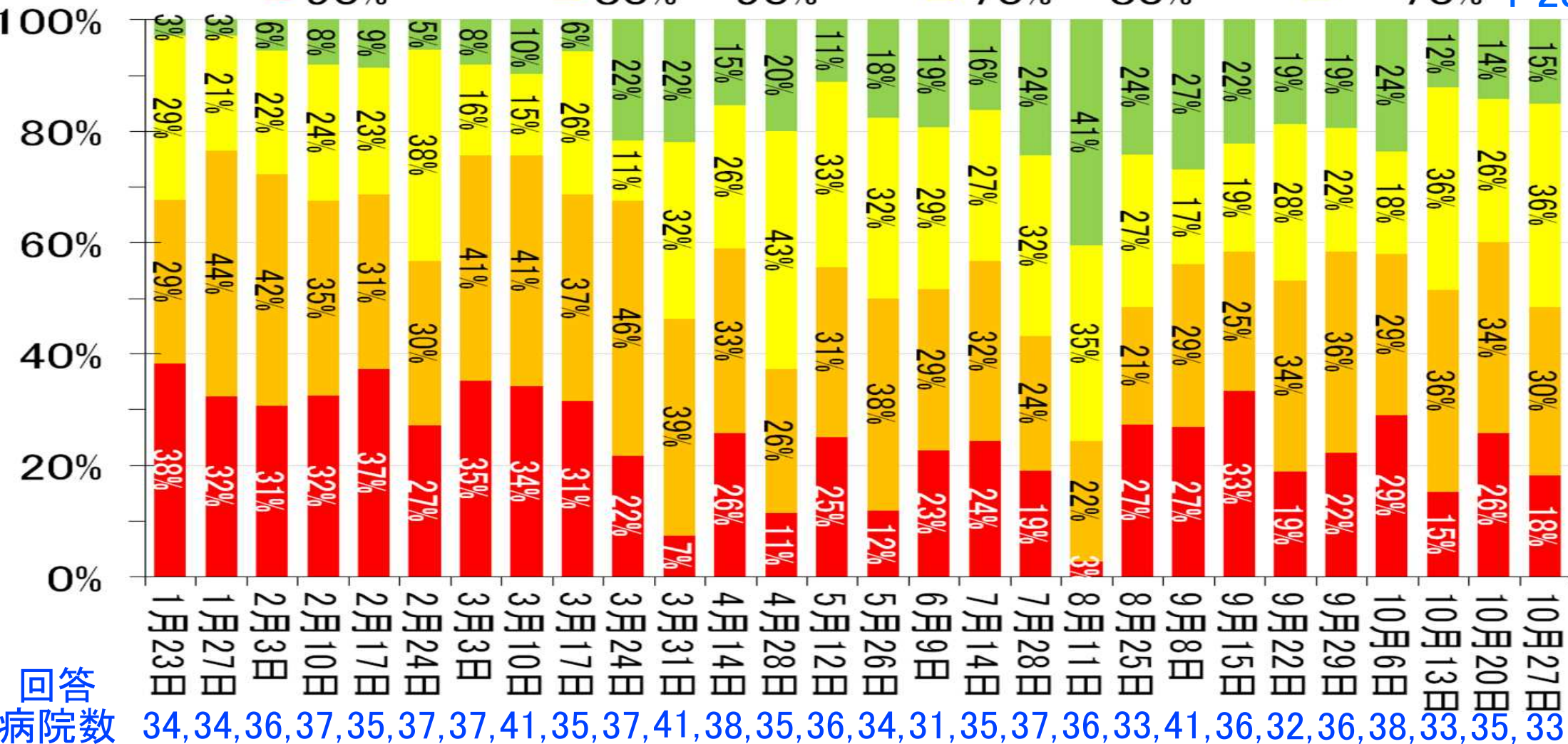
4

静岡県コロナ受入病院の一般病床使用率の状況(1/23~10/27)

・直近10月13日時点で、一般病床使用率が90%以上の病院は、6病院18%。

P28

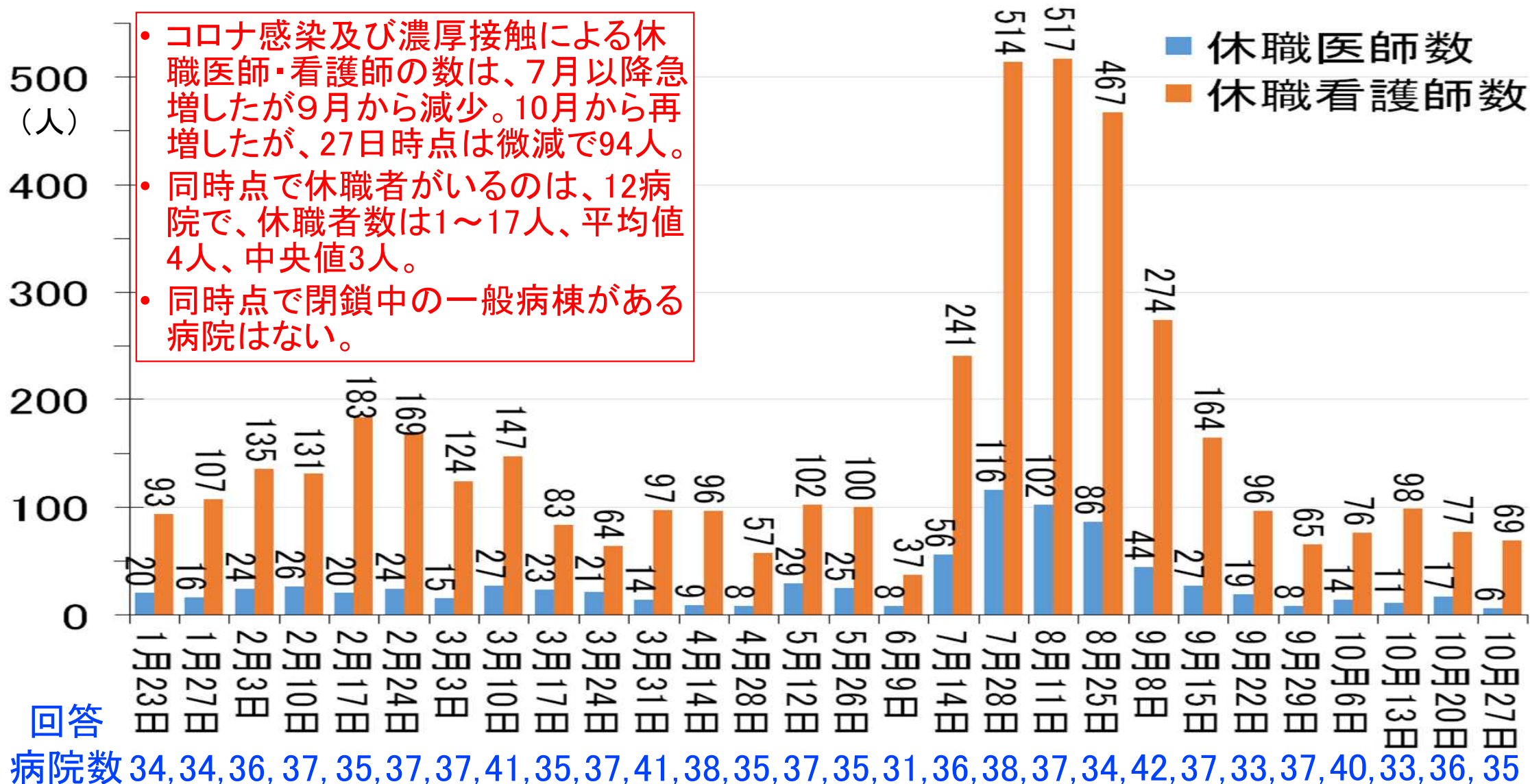
■ 90% ~ ■ 80% ~ 90% ■ 70% ~ 80% ■ ~ 70%



回答
病院数

静岡県 コロナ受入病院の休職者の状況(1/23~10/27) P29

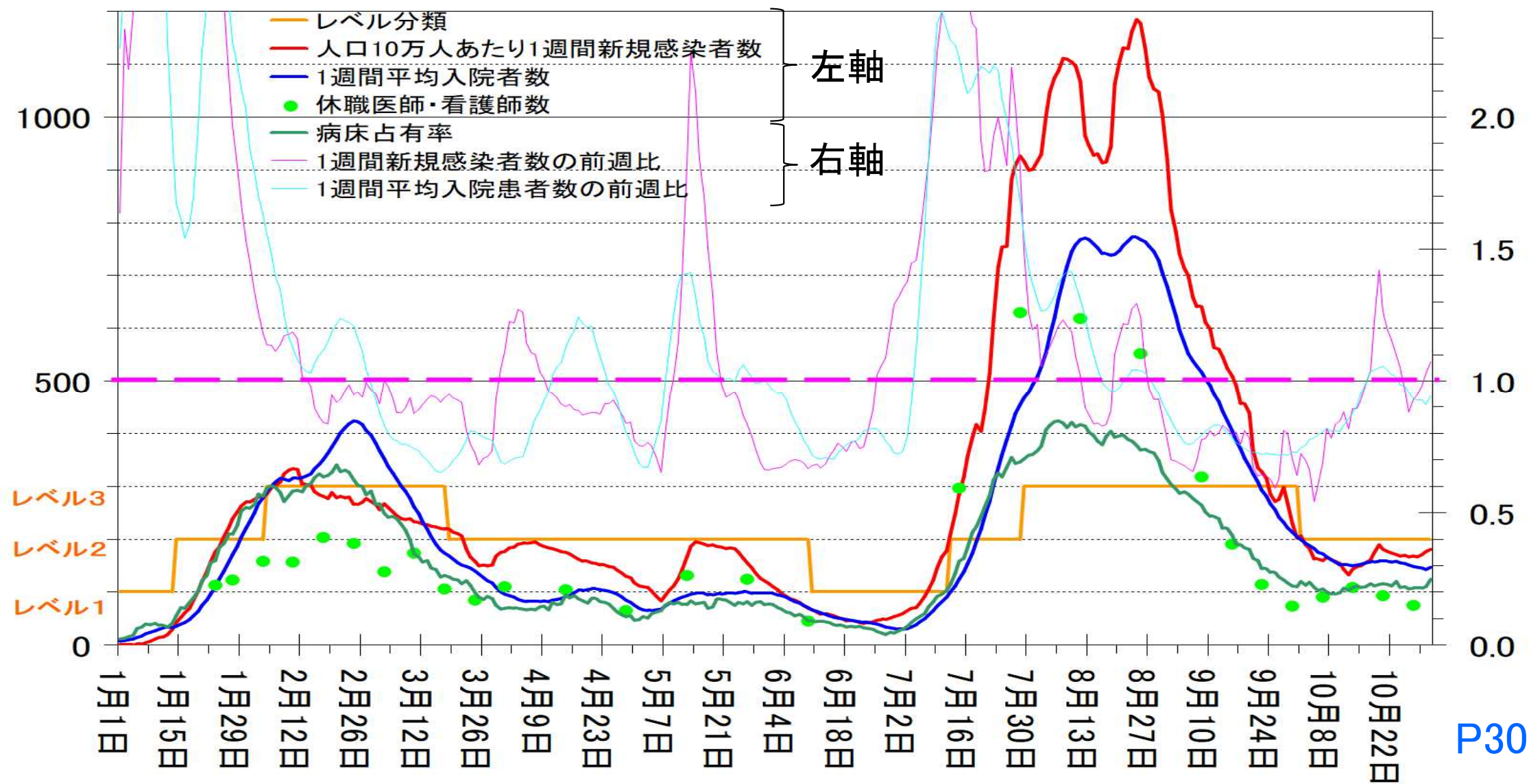
- コロナ感染及び濃厚接触による休職医師・看護師の数は、7月以降急増したが9月から減少。10月から再増したが、27日時点は微減で94人。
- 同時点で休職者がいるのは、12病院で、休職者数は1~17人、平均値4人、中央値3人。
- 同時点で閉鎖中の一般病棟がある病院はない。



回答

病院数 34, 34, 36, 37, 35, 37, 37, 41, 35, 37, 41, 38, 35, 37, 35, 31, 36, 38, 37, 34, 42, 37, 33, 37, 40, 33, 36, 35

静岡県 感染者・入院者数等とレベル分類の推移(1/1~10/31)



静岡県 発令中 及び 今後発令の可能性がある 注意報・警報

感染/医療 注意報/警報	感染再拡大	医療ひっ迫
注意報	10月21日～ 発令中	10月1日～ 発令中
警報	1週間新規感染者数の前週比1.5以上が7日間続けば発令 (現在1.5以上はなし)	7月29日～9月30日 発令し、解除 病床占有率50%超or そのおそれ発令

静岡県 第6・7波・今回の感染再拡大注意報発令後の状況(10/31時点)

波,日付,日数 発令,各指標	第6波 (オミクロンBA.1)		第7波 (オミクロンBA.5)		今回 (オミクロンBA.5)	
	日付	日数	日付	日数	日付	日数
感染再拡大 注意報 発令(仮定日)	1月5日 46人, 6.3%, 28人	0日	7月1日 2192人, 5.9%, 34人	0日	10月21日 6434人, 23.1%, 154人	0日
感染再拡大 警報 発令(仮定日)	1月7日 150人, 8.0%, 35人	2日	7月11日 6486人, 20.8%, 115人	10日	10月31日 6608人, 25.0%, 166人	10日
病床占有率50%超	1月29日 50.6% (259人/512床)	24日	7月20日 52.3% (327人/625床)	19日		
1週間新規感染者数のピーク	2月10日 12148人	36日	8月7日 40445人	37日		
病床占有率のピーク	2月20日 68.1%	46日	8月6日 84.7%	36日		
入院患者数のピーク	2月20日 445人	46日	8月9日 800人	39日		

感染再拡大注意報
発令中も、今のところ
警報には至らず

全国季節性インフルエンザと静岡県新型コロナBA.5との比較(9/30時点)

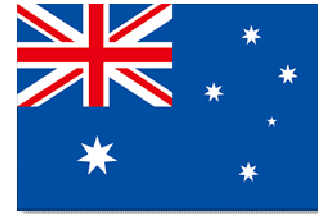
ウイルス	季節性インフルエンザ※1		新型コロナ オミクロン株 BA.5亜系統※2	
	60歳未満	60歳以上	60歳未満	60歳以上
患者の年代	60歳未満	60歳以上	60歳未満	60歳以上
致死率	0.01%	0.55%	0.004% (10人/260,031人)	0.59% (315人/53,419人)
			コロナが主たる死因 0.001% (3人/260,031人)	コロナが主たる死因 0.29% (156人/53,419人)
重症化率 (ICU/人工呼吸器)	0.03%	0.79%	0.01% (16人/260,031人)	0.09% (48人/53,419人)

※1;「2022年7月13日第90回新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード 資料6」より 観察期間は、2017年9月～2020年8月

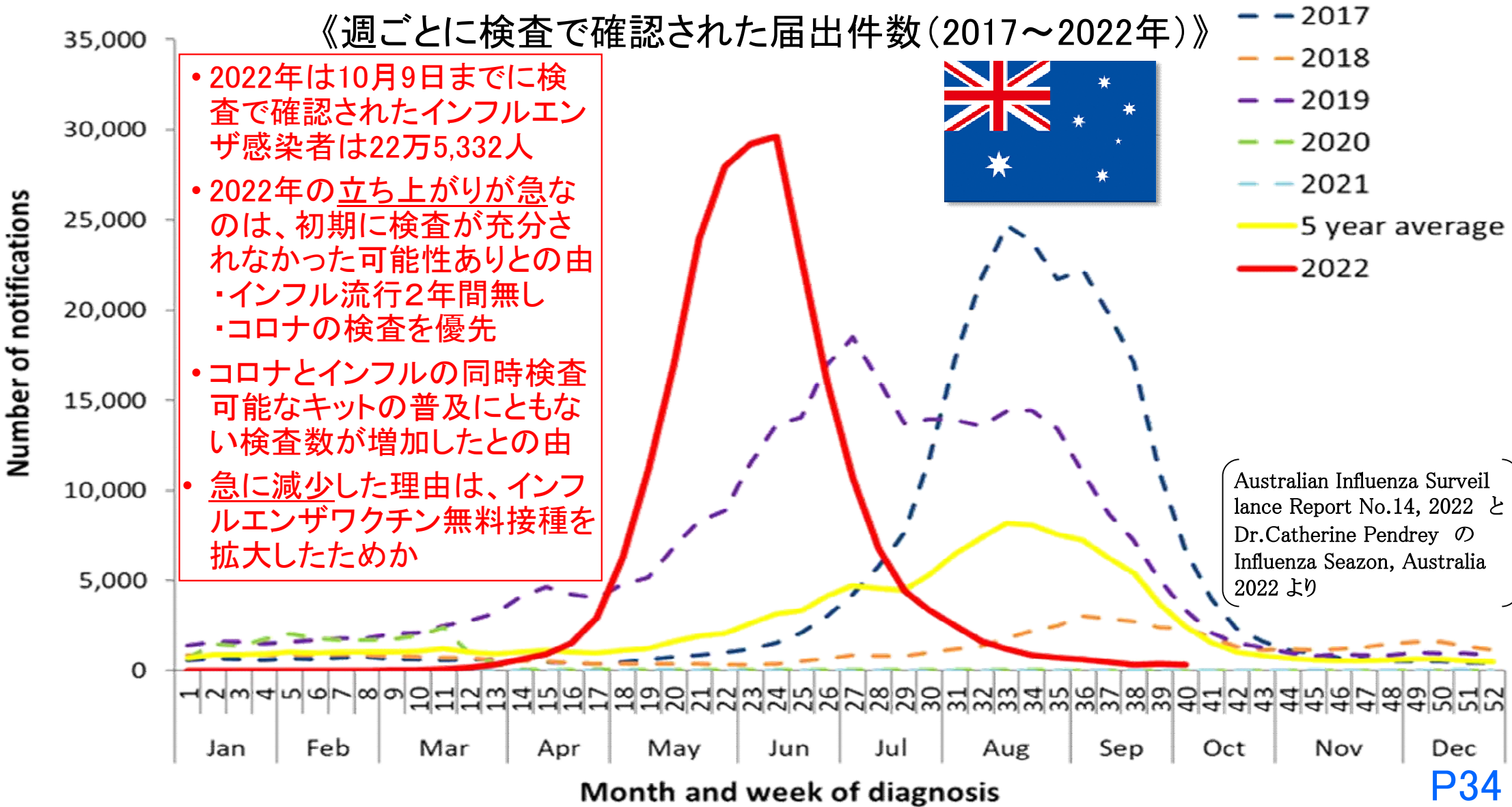
※2;静岡県健康福祉部感染症対策局調べ 観察期間は、全ての指標で2022年7月1日～9月30日

オーストラリア(人口約2,600万人) インフルエンザの流行状況(10/9時点)

《週ごとに検査で確認された届出件数(2017~2022年)》



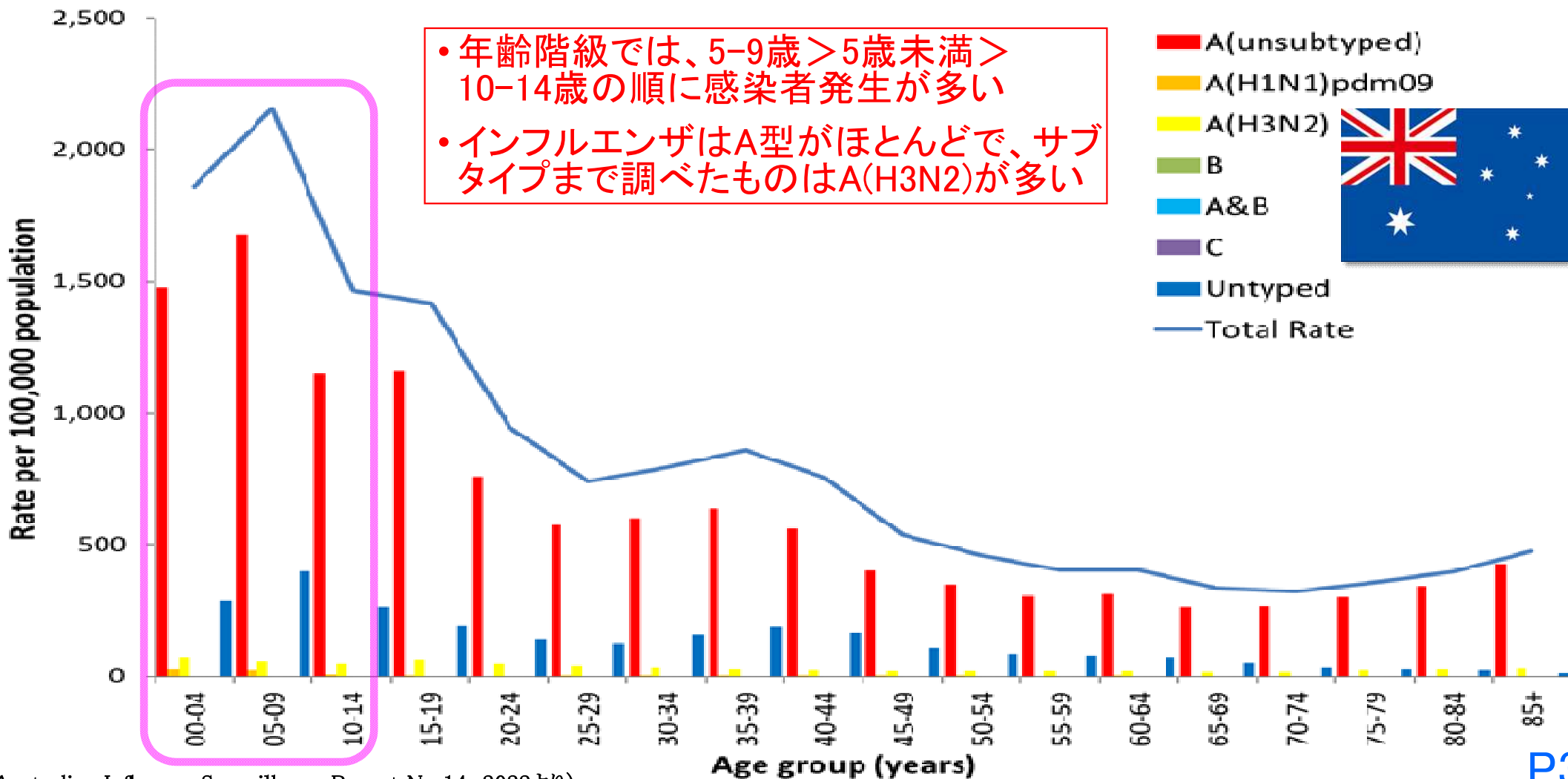
- 2022年は10月9日までに検査で確認されたインフルエンザ感染者は22万5,332人
- 2022年の立ち上がりが急なのは、初期に検査が充分されなかった可能性ありとの由
 - ・インフル流行2年間無し
 - ・コロナの検査を優先
- コロナとインフルの同時検査可能なキットの普及にともない検査数が増加したとの由
- 急に減少した理由は、インフルエンザワクチン無料接種を拡大したためか



Australian Influenza Surveillance Report No.14, 2022 と Dr.Catherine Pendrey の Influenza Season, Australia 2022 より

オーストラリア インフルエンザ感染者の年齢、流行株(10/9時点)

《年齢階級別・サブタイプ別 人口10万人あたりの検査で確認された届出数(2022年1月1日～10月9日)》

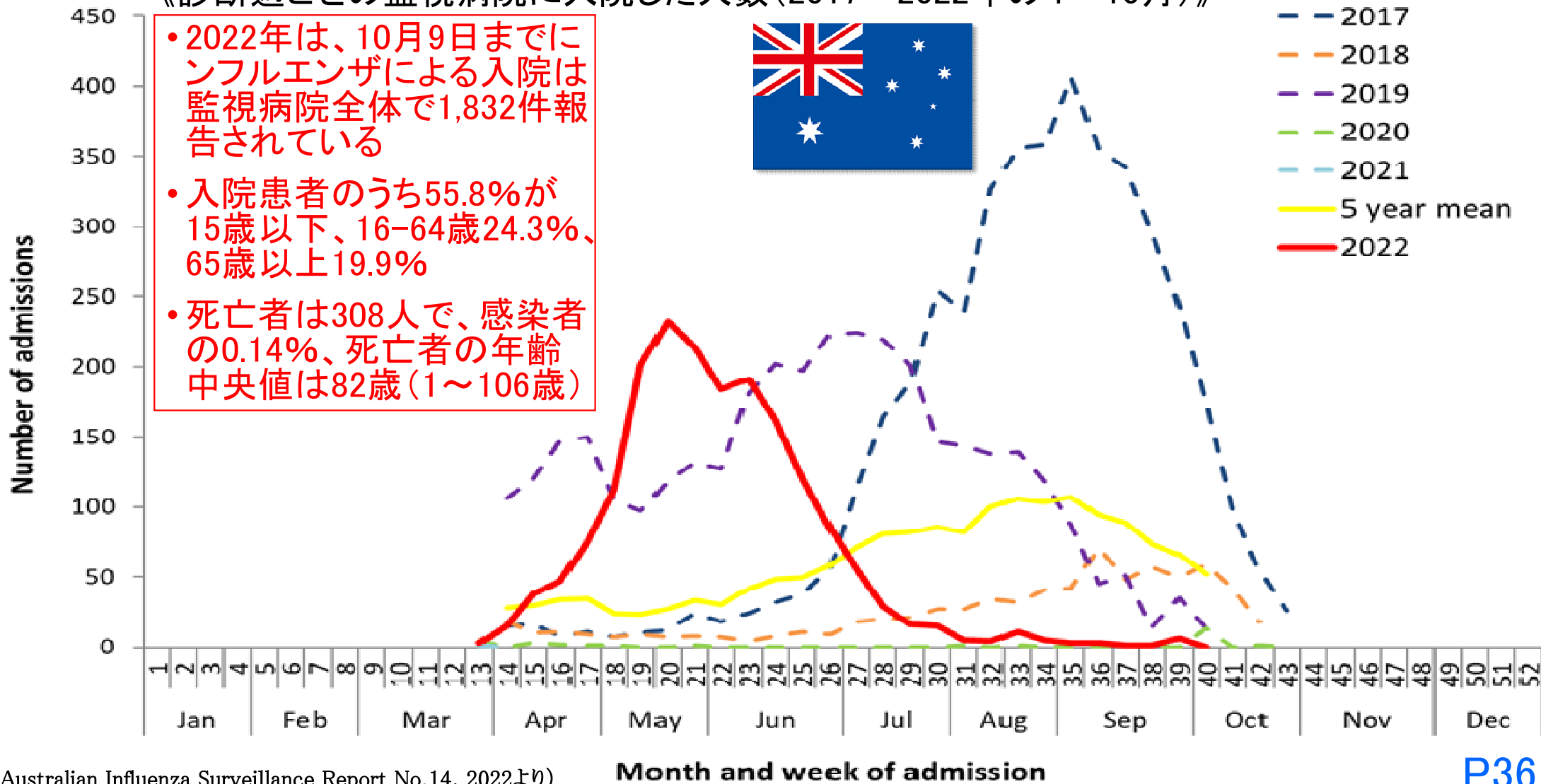


(Australian Influenza Surveillance Report No.14, 2022より)

オーストラリア インフルエンザ感染者の入院状況(10/9時点)

《診断週ごとの監視病院に入院した人数(2017~2022年の4~10月)》

- 2022年は、10月9日までにインフルエンザによる入院は監視病院全体で1,832件報告されている
- 入院患者のうち55.8%が15歳以下、16-64歳24.3%、65歳以上19.9%
- 死亡者は308人で、感染者の0.14%、死亡者の年齢中央値は82歳(1~106歳)



(Australian Influenza Surveillance Report No.14, 2022より)

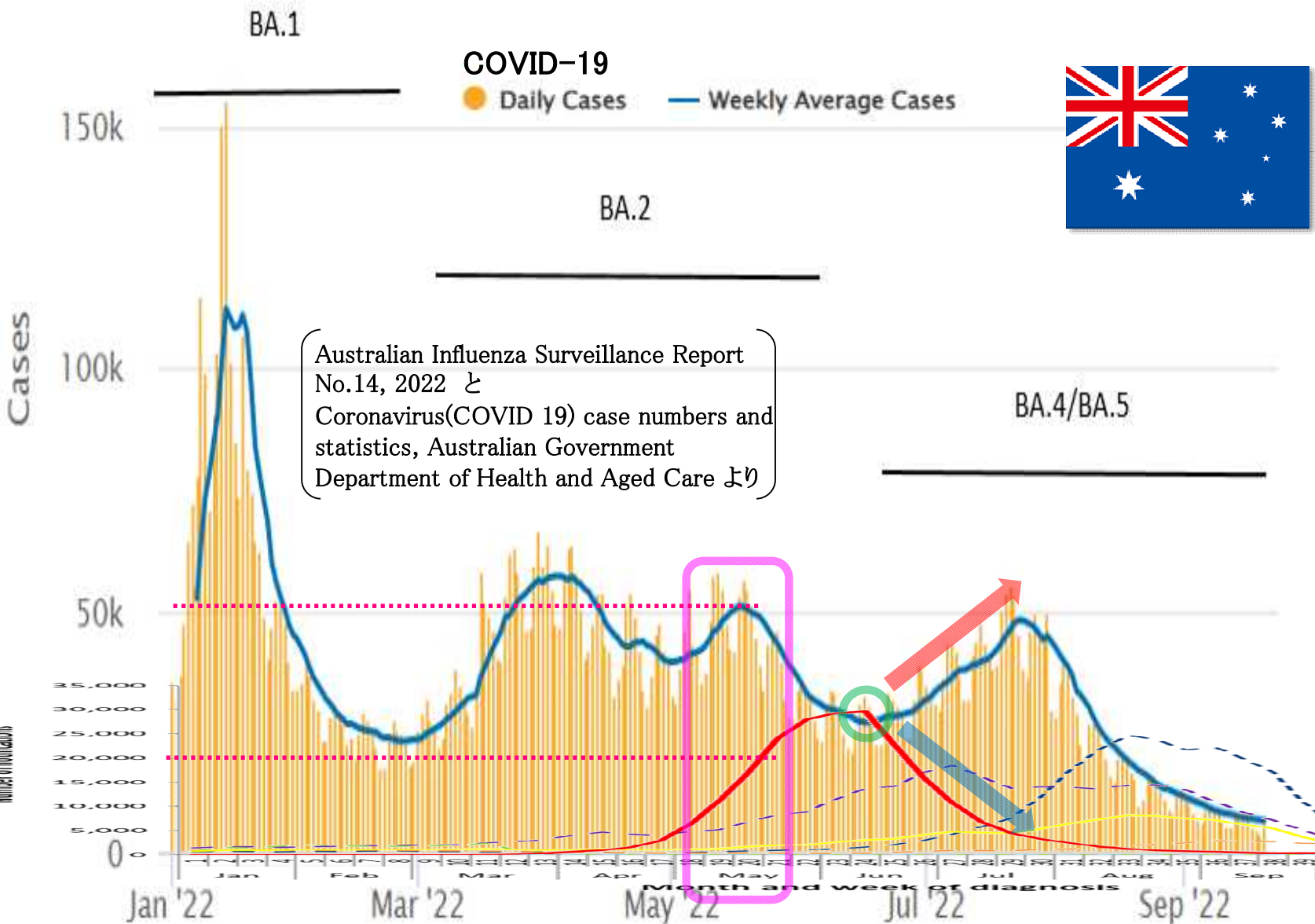
オーストラリア 今季のインフルエンザ流行 まとめ(10/9時点)

《”Australian Influenza Surveillance Report No.14, 2022”のKey Messagesより》



活動性	<ul style="list-style-type: none">2022年の社会でのインフルエンザ様疾患 (ILI) の発生は、6月のピーク以降低い。
重症度	<ul style="list-style-type: none">インフルエンザにより<u>直接ICUに入院した患者数や死亡者数から見ると、今季のインフルエンザの臨床的な重症度は低い。</u>
影響	<ul style="list-style-type: none">休職者の割合や定点医療機関の入院患者数から見ると、<u>今季のインフルエンザの社会への影響は、低度から中等度</u>である。
リスク集団	<ul style="list-style-type: none">2022年の現在までは、<u>5～9歳、5歳未満そして10～19歳が最も高いインフルエンザの届出率</u>を示している。
ウイルス学	<ul style="list-style-type: none">現在までに、検査で確認されたインフルエンザの届出の<u>82.7%がインフルエンザA</u>であり、そのうち94.4%がインフルエンザA(サブタイプ検査なし)、0.9%がインフルエンザA(H1N1)、<u>4.7%がインフルエンザA(H3N2)</u>。インフルエンザBは届出の0.2%を占め、0.1%未満はAとBの重複感染であり、17.1%は型が分類されていない。
ワクチンとの一致性とワクチンの有効性	<ul style="list-style-type: none">これまでに検査された2,570の検体のうち、<u>インフルエンザA(H1N1)の92.4%、インフルエンザA(H3N2)の94.5%、およびインフルエンザB/ビクトリアの全6株は、対応するワクチン成分と抗原的に類似</u>の特徴があった。今シーズンのワクチンの有効率は、<u>インフルエンザワクチンがインフルエンザの感染と合併症を予防する効果としておよそ40～60%</u>である。

オーストラリア コロナとインフルエンザの同時流行状況(2022.1~9月)



- コロナBA.2波2つめのピークとインフルエンザの流行拡大が重なって同時流行となっている(約5万人+2万人/日)
- インフルエンザの感染者数のピークとコロナBA.2の感染者数の底がほぼ一致している
- コロナBA.4/5の感染拡大とインフルエンザの収束が同時期に進行
- むしろコロナとインフル合わせて約5万人/日の感染者が3~7月に続いたことが重要

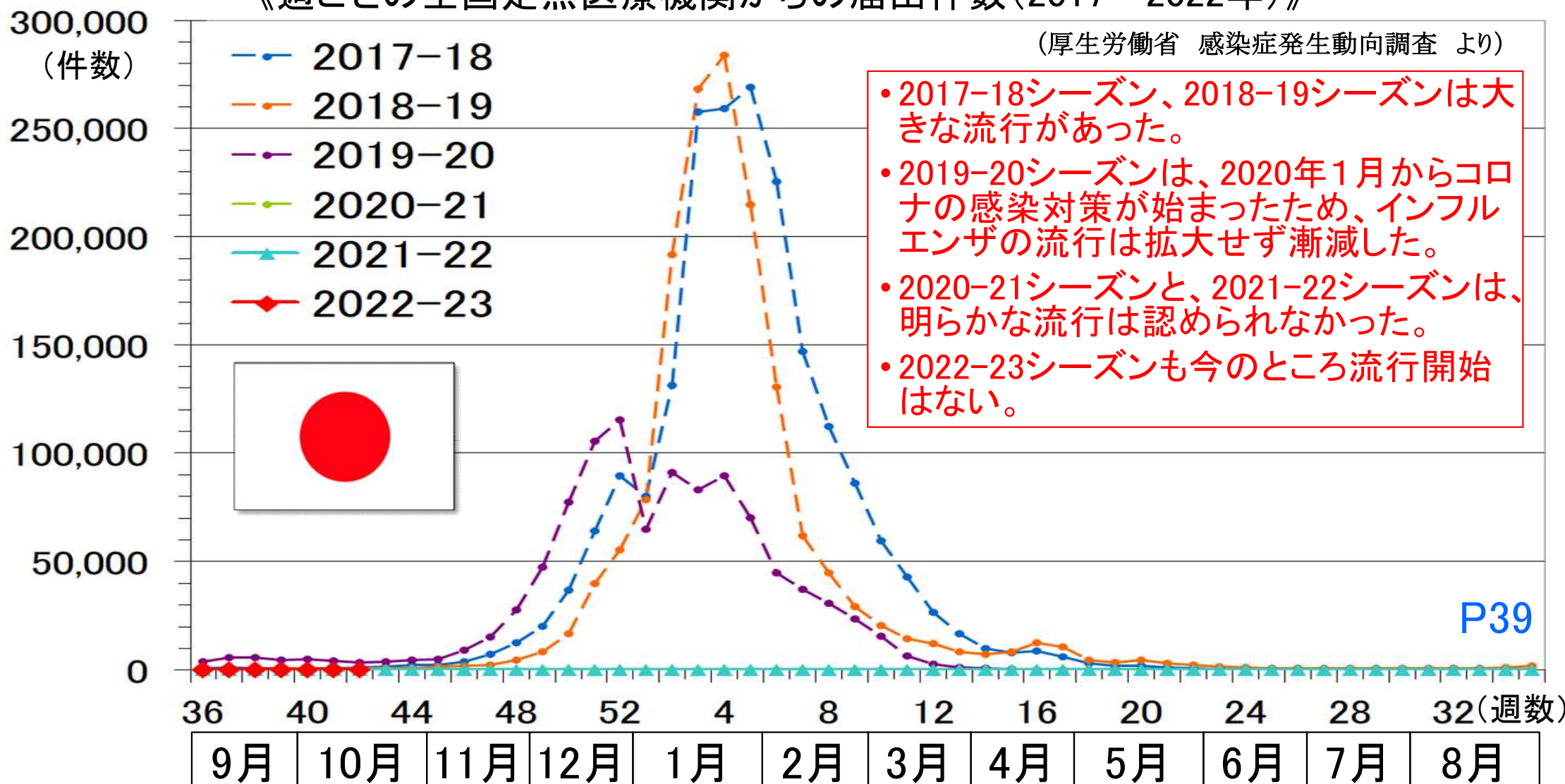
ちなみに、オーストラリアでは、

- ・9月からマスクの緩和
- ・9月9日からコロナ陽性者の隔離期間短縮(7日⇒5日)
- ・10月14日から陽性者の隔離終了(医療機関と高齢者施設の従事者を除く)

P38

日本 今季のインフルエンザの流行状況(10/23 第42週時点)

《週ごとの全国定点医療機関からの届出件数(2017~2022年)》



日本 今季のインフルエンザの流行状況(10/23時点)【1,000倍拡大】

《週ごとの全国定点医療機関からの届出件数(2017~2022年)》

